

車体 NEWS

AUTUMN 2016 秋

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

CONTENTS

巻頭言 2

NEWS 特集

環境対応事例発表会を開催 3

NEWS FLASH

本部だより 9

部会だより 11

支部だより 13

官公庁だより 15

会員情報 18

月度活動状況 19

Net Work

vol.84 機いそのボデー 23

VOICE

大日本塗料(株) 25

株レニアス 26

そこが知りたい

第30回 「バスタ新宿」って何? 27

働くクルマたち

第14回 水タンクローリについて 29

Coffee Break 31

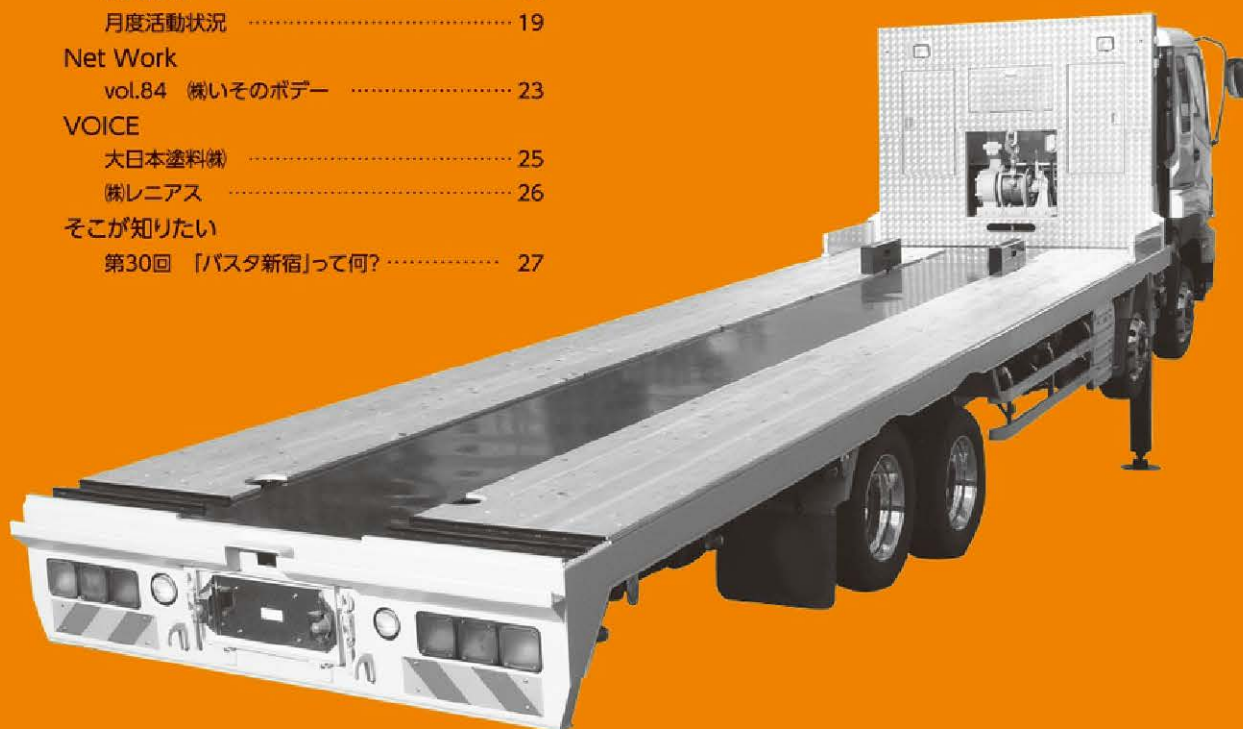
我が社の元気人 33

DATA FLASH

2016年1月～2016年6月

会員生産状況概要 34

編集後記 37



URL: www.jabia.or.jp/ E-mail: info@jabia.or.jp

光と音でバスをサポート

信頼と機能を提案し続けます



株式会社 **オージ**
<http://www.kk-oji.co.jp>

北海道の物流と 車体づくりと今後の展望

北海道支部長 坪川 弘幸
北海道車体(株)・取締役副社長



日本自動車車体工業会北海道支部長を努めております北海道車体(株)の坪川です。

【日本経済と物流業界】

アベノミクス3本の矢(金融・財政・成長)デフレ脱却に向けた政策の中で、個人消費鈍化、公共投資減少、また、中国を含めた新興国等の経済減速、更に円高株安、原油安等の状況の中、企業収益好調に支えられ個人消費が堅調に推移、本年度の国内経済はプラス成長の見込み。

しかし物流業界は労働者(運転手)不足、車両不足、規制強化(労働時間)等により需要があっても対応できない状況の中で、近年の燃料差益等もあり業績が向上、全国的に車両設備の増加があり、他にシャシメーカーの完成車化も急速に増加し、本州の車体メーカーからも納期が一年超えの情報が聞こえてきます。

本年度の商用車需要予測は、普通貨物175千台(対前年比105%)、小型貨物274千台(同107%)、大型バス5.6千台(同102%)、小型バス8.8千台(同102%)、トレーラー7.3千台(同103%)予測(自動車工業会/車体工業会の資料)。

しかし貨物輸送量の漸減、保有台数の減少、使用年数長期化継続、シャシメーカー完成車化の増加等も含めると、中長期的には経営環境は厳しい状況が見込まれます。

【北海道経済と北海道支部】

現在、北海道支部は正会員5社、地方正会員(本部正会員の出先)6社、地域会員16社、準会員2社、合計29社にて活動しております。

北海道の状況については、全国GDPシェア5%経済圏と言われておりましたが、近年は3~4%前後で推移しているようです。

本年度道内景気見通しは、国内・道内景気の需要増に加え、個人消費、住宅投資、設備投資等増加、公共投資は減少、高齢化を背景とした医療・介護現物社会給

付など、政府消費は増加傾向となります。

観光消費の増勢持続、海外客に加え北海道新幹線の開業に伴い道外客も増加が見込まれることなど含め、実質道内経済成長率は昨年度が0.7%(名目0.8%)に対し本年度は1.2%(名目1.9%)の見込みで、益々観光分野に官民一体対応等、経済活性化に向けた動きの中で、支部としても会員相互で諸活動を通じ、役割を果たしていくことが重要です。

【北海道の物流と車体業界】

北海道の輸送形態は本州と比較し、特異的部分として第一次産業(農畜産業、林業、水産業)の比率が高く、温度管理車への要求も高くなっております。なんと言っても、北海道と本州とは陸続きではなく、フェリー輸送せざるを得ません。更には、北海道へ戻る際に「帰り荷」待ちで本州に予定以上に滞在することもあります。

また、北海道内輸送においては、都市間距離が長いためドライバーの労働時間規制対応にも留意しなければなりません。

そして、ドライバー不足への対応として、セミトレーラ的大型化、フルトレーラの全長25mへの規制緩和等、大量輸送化に向けた動きが加速しております。このような車体の変化や前述の北海道特有の輸送形態に合わせるとともに、寒冷地の防錆対策も含め、お客様の要望に対応した架装事業に取り組んでいきたいと思っております。

【結び】

全国の中でも一段と経営環境が厳しい北海道。暖房、除雪はもとより、積雪により敷地面積が1/5程減ってしまうための排雪、構内補修等、乗り越えながら、北海道支部として会員企業に対し材料の共同購入、技術の向上、設備の相互利用等含め「ものづくり」事業として環境にやさしい車体架装、製品作りを心掛け、北海道の物流に多少なりとも貢献したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



環境対応事例発表会を開催

7月14日、芝パークホテルにて「環境対応事例発表会」を開催した。本発表会は、環境委員会が会員各社の環境対応に関する好事例を共有することで全体のレベルアップを図っていくことを目的として2008年度に初めて開催、今回で7回目となる。また2007年度以前に実施していた前身の「環境勉強会」と合わせると9回目となる。

今年度は、一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会の尾畑副代表理事による特別講演に加えて、環境委員会委員4名により、車体工業会の取組みと会員各社での好事例についての発表が行われた。44会員から86名が参加し、会員相互の環境対応についての共有化を図ることができた。



網岡委員長

網岡環境委員長(トヨタ車体株取締役会長)の挨拶

昨年の12月に行われました「COP21/パリ協定採択」では、「18世紀半ばの産業革命前と比した今世紀末の世界の平均気温上昇幅を、2度を十分下回り1.5度に抑える努力をする」と採択され、更に、「世界全体の排出量を今世紀後半には森林などによる二酸化炭素の吸収効果を加えて排出を実質ゼロにする」ことも盛り込まれた。

これらに対して、当会での取組みを更に加速させ対応できる体質強化をしていかなければならない。

当会では、体質強化に向け今年度も「商用車架装物リサイクル」と「生産工程での環境負荷低減」を環境対応の2本柱活動として取り組んでいく。

「架装物リサイクルの推進」では、地球環境に優しい「環境・新環境基準適合ラベル」通称ホワイトラベル・ゴールドラベルが今年1月に「環境省のホームページ」へ登録され、一層の認知度向上に繋げることができた。会員様の環境ラベル取得促進を更に進めていただくようお願いする。

次に、「生産工程での環境対策」では、今年度より産業廃棄物最終処分量の更なる削減を目的に、比較的排出量が多い会員様より順じ工場へ訪問し、削減に向けた支援活動をスタートさせた。

最後に、本日の環境対応事例発表会を参考としていただき、当会会員の皆様が、今後益々我々を取り巻く環境課題に、積極的かつ確実に対応していただけますことをお願いしたい。



JAERA並びにJTPの紹介と 商用車架装物リサイクルの取組み

一般社団法人日本トラック
リファインパーツ協会
副代表理事
尾畑 雄司 氏



1. JAERA/JTPとは

日本ELVリサイクル機構

(JAERA)は2000年に発足し、現在会員数は566社・49団体。使用済自動車の適正処理を通じて社会に貢献することを目的としている。また、日本トラックリファインパーツ協会(JTP)は2001年に発足し、会員数は48社。トラックリサイクル部品に特化し、その品質基準構築、流通ネットワークによる安定供給及び、廃棄物の適正処理等を目的としている。

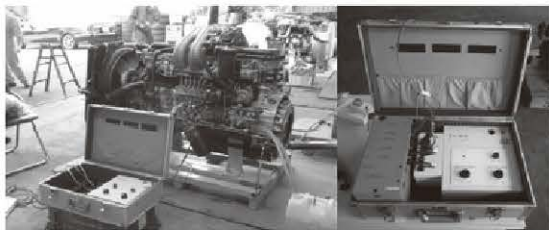


2. トラックリファインパーツ品質向上の活動

自動車リサイクル法施行前、2002年から「トラック・3Rを促進させる環境フォーラム」を3回開催、トラックに関わる行政やメーカー・整備事業者・ユーザー団体等が一堂に会して、各々が担うべき責任を共有した。もちろん車体工業会にも参画してもらっている。

更に、以下の取組みを行ってきた。

- ・電子制御エンジンを単体でスタートできるテスト装置「シグマイスター」の開発



- ・作業品質向上のためマニュアル作成及び年4回の研修の実施



- ・大きく重いパーツを運送するためのリターナブル梱包材の開発と運用



- ・全国加盟店の約15万点の在庫情報を共有化できる「らくだネット」による安定供給実現



3. 車体工業会との連携

自動車リサイクル法施行前、2002年から「トラック・3Rを促環境フォーラムで車体工業会にお願いした事項は、次のように実現されてきた。

- ・架装物廃棄時の木材・断熱材等の適正処理事業者の紹介
→ 毎年、処理事業者を更新しパンフレットの配布・HP掲載
- ・「架装物についての解体手順の公開」
→ HPに解体マニュアルを掲載



- ・「廃却ボデー内へのゴミ廃棄禁止・タンク車／塵芥車等の廃却前の洗浄の徹底」
→ 「架装物の適正処理について」パンフレット配布・HP掲載



- ・「解体・分別しやすいボデーの製作」
→ 解体作業／架装メーカー見学会と2回の意見交換を毎年共同実施



以上の車体工業会の対応について深く感謝するとともに、わたくしどもも自らの責任を果たして、ボデーのリサイクル・処理が的確に行なわれるよう努力していく。

車体工業会の環境対応事例

環境ラベルの環境省ホームページへの掲載とラベル取得推進のお願い

車体工業会 環境委員会
架装物リサイクル分科会
副分科会長

日本フルハーフ(株) 開発部
管理グループ グループリーダー
小澤 正広 氏



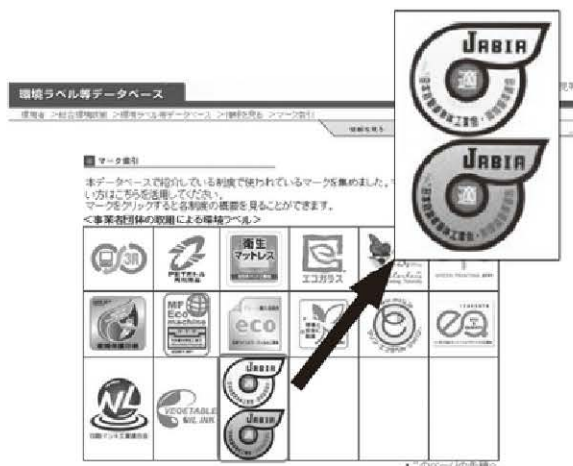
1. まえがき

架装物リサイクル分科会では、「リサイクル設計の推進」、「協力事業者制度の維持向上」、「環境負荷物質の使用削減」について取り組んできた。その一つが「環境・新環境基準適合ラベル(ホワイトラベル・ゴールドラベル)」の普及活動であり、2015年度を通しての諸活動によって、2016年1月には環境省の「環境ラベル等データベース」に掲載され、そのプレゼンスを大きく向上することができた。



2. 環境ラベル等データベースについて

環境負荷の低減に資する物品等を選ぶ際に参考となる情報源を集め、グリーン購入の取組みに向けて、「環境情報を知る」、「グリーン購入の計画を立てる」、「環境物品を探す手掛かりとする」ものとして環境省のHPで掲載され広く一般に紹介されるものである。



環境ラベル等データベース

環境省 > 社会環境政策 > 環境ラベル等データベース >



本ホームページは、環境物品（環境負荷の低減に資する物品・サービス）を適当に参考となる情報源を集め、グリーン購入の取組の推進に向けて、広く一般に紹介するものです。

注：ここに紹介する環境ラベル等は、それぞれの団体、事業者の責任において実施されているものです。
これらの環境ラベル等に基づき提供される情報について環境省が保証するものではありません。
本環境ラベルデータベースに掲載されている個々の環境ラベルの使用、転載等については、個々のラベル発行機関に確認いただきますようお願いいたします。

3. 環境・新環境基準適合ラベル取得のお願い

「環境基準適合ラベル(ホワイトラベル)」とは使用済架装物の解体作業の容易化を図り、再生資源の適正な処理を促進する『環境にやさしい車体』であることを証明するラベルで、2004年4月から運用を開始、現在208機種が適合している。本ラベルを取得するには「商用車架装物に関する3R“判断基準”ガイドラインの遵守」、「解体マニュアルの設定・公開」、「製造者名の表示」、「樹脂部品材料名の表示」の4要件が必要である。

更に「新環境基準適合ラベル(ゴールドラベル)」は「より環境にやさしい架装物」を目指して「車体製品部材のリサイクル可能率95%以上」、「環境負荷物質自主取組み基準の達成」、「ISO14001、エコアクション21等の環境認証取得工場での生産」の追加3要件が必要となり、2011年4月から運用を開始、現在159機種が適合している。

項目	対応方法例
1. 当会認定の「商用車架装物に関する3R“判断基準”ガイドライン」の遵守。	「3R“判断基準”ガイドライン」の遵守。
2. 機種別解体マニュアルの設定、公開。	「解体マニュアル」の設定、公開。
3. 製造者名表示。	「製造者名」の表示。
4. 樹脂部品材料名の表示。	「樹脂部品材料名」の表示。

項目	対応方法例
1. 車体製品部材のリサイクル可能率95%以上	「車体製品部材のリサイクル可能率95%以上」の達成。
2. 環境負荷物質自主取組み基準の達成	「環境負荷物質自主取組み基準」の達成。
3. 環境認証取得工場での生産	「ISO14001、エコアクション21」等の環境認証取得工場での生産。

詳細については車体工業会HPの「環境への取組み」をご覧ください是非取得いただきたい。



4. 最後に

JAERA、JTP、日本自動車工業会、行政の皆様と連携・ご助言をいただき活動を深化させてきた。お礼を申し上げます。また、本会会員の皆様には、是非とも本ラベルの取得を推進いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

環境に優しい特装車 電動塵芥車の動向紹介

車体工業会 環境委員会
架装物リサイクル分科会 委員

新明和工業株式会社 特装車事業部
品質保証部営業技術担当部長
伊藤 光夫 氏



1. はじめに

塵芥車収集装置の電動化は、1991年、塵芥車メーカーによって実用化されたが、コスト面に課題があり、市場普及に至らなかった。次の電動塵芥車は2009～2010年、塵芥車メーカー3社が相次ぎ発売した。

各社のシステムは異なるものの、塵芥収集装置専用のバッテリーを装備したことにより、やはりコストと重量増の問題が依然として残された。

これらの問題を解決するため、トラックシャシメーカーと塵芥車メーカーの共同開発により2014年から実用化されたのが、ハイブリッドトラックシャシのバッテリー電力を塵芥装置にも供給できるようにした方式によるハイブリッド電動塵芥車である。

しかしながら、ハイブリッドトラックシャシに標準装備された走行用バッテリーから電力供給されるため塵芥装置に供給される電気容量が限られていた。



2. 実用化されている電動塵芥車4機種

現在までに市販実用化された電動塵芥車は次のとおり。

・ 走行充電方式

車両の減速制動の回生エネルギーを利用した方式



- ・ プラグインPTO駆動パラレル方式
プラグインの電動とエンジン動力によるPTO駆動のパラレル駆動方式
- ・ プラグイン方式
大容量バッテリー搭載方式
- ・ ハイブリッド方式
シャシ側のハイブリッドバッテリーの電力を塵芥装置駆動にも利用した方式

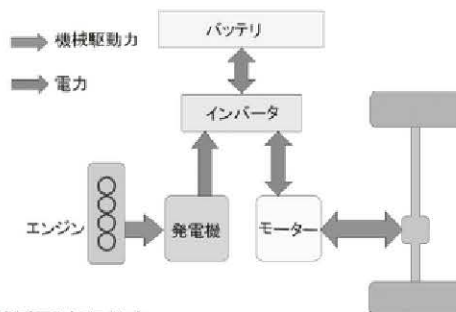


これらの実用化されている電動塵芥車はディーゼル車と比較すると「コスト・車両重量増加」、「走行時の燃費悪化（ハイブリッド車以外）」、「走行アシスト優先、エアコン稼働による塵芥装置への電気供給量変動（ハイブリッド車）」等により、まだまだ進化の可能性を有している。

3. 次世代電動塵芥車開発の取組み

・ プラグインハイブリッド電動塵芥車

通常の走行、塵芥収集はプラグインでバッテリーに充電した電力を利用。バッテリー容量がなくなっても、エンジンで発電機を駆動し、バッテリーに充電し走行・塵芥収集が可能。2015年、東京都三鷹市の協力で実証運用試験を実施、走行・収集作業とも電気駆動できることが確認されている。



・ 燃料電池塵芥車

70メガパスカルの水素を利用して発電して走行、塵芥収集できる車両。2016年秋に実証運用試験を行う予定。

4. まとめ

電動塵芥車の目指す方向性は「無排気ガス収集・低騒音・低燃費（CO₂削減）」であるが、依然として普及の課題は重量とコストとなっている。トラックシャシメーカー、塵芥車メーカー、バッテリーメーカーを含む各分野の技術を結集した開発が望まれる。そしてエネルギー消費の大きい大型特装車への展開にも効果が期待される。

新電力の選択による電力料金削減 (電力会社選択時のCO2排出量低減手法)

車体工業会 環境委員会
工場環境分科会 委員

㈱オーテックジャパン 生産部
技術グループ 課長
緒方 俊夫 氏



1. まえがき

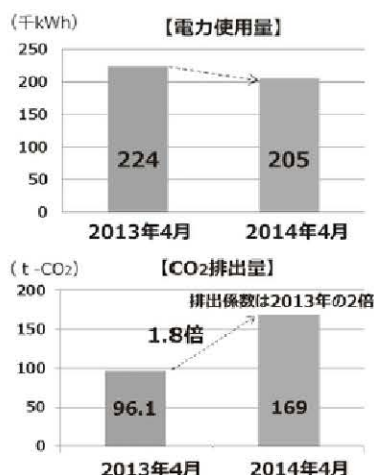
2014年に初めて新電力を採用する際に、当社関係者の知識不足からCO2排出量を大幅増加となる事象が発生してしまっただ。その経験から新電力を選択する際に用いる選定手法を構築した。今回はその手法を紹介する。

2. 新電力の初採用

東日本大震災の影響で大幅な増加が予想された2013年度の当社電力料金削減のため、電力使用量・電力料金削減対策を多数検討した。その対策のひとつが新電力の採用であった。

3. CO2排出量大幅増加

2014年度が始まり、新電力からの電力供給が始まると、CO2排出量が大幅増加した。弊社電力関係者のCO2排出係数に対する理解不足が原因で、契約した新電力の情報を誤認識したためだった。



4. 再発防止策

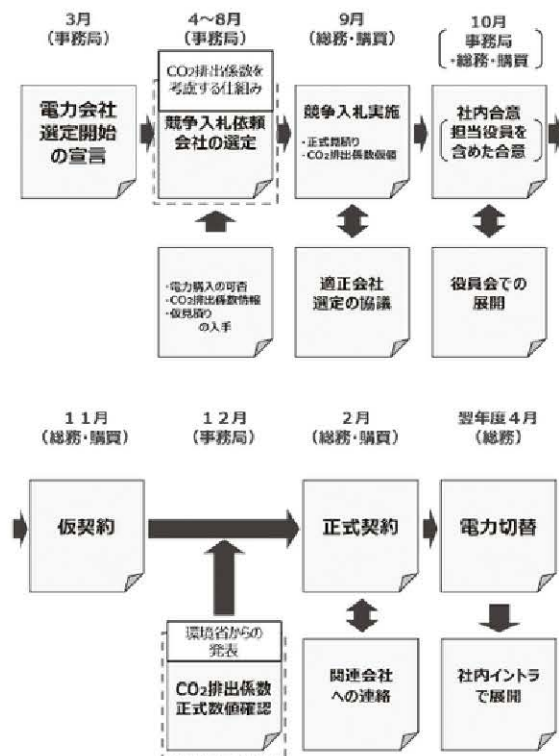
発生原因を検証してみると、新電力からの情報『現在CO2排出量の削減に取り組んでおり、排出係数が改善の見込み』と当社関係者の認識『これからCO2排出量が改善する』との間に食い違いがあったことが判明した。

そのため、再発防止策として、電力関係者への教育の徹底と、今回紹介する新電力の選定手法を構築した。新電力の選定手法は、電力関係部署が協働して電力会社を選定する内容となっている。各部署の牽制作用を利用することにより、CO2排出量、電力の安定供給、電力料金の低減を行なう。

5. 新電力選定手法の特徴

CO2排出量については、CO2排出係数をもとに新電力の絞り込みを実施することで、CO2排出量をコントロールする。更に競争入札を実施することにより、電力料金の低減を行なうことが特長となっている。

この手法により、CO2排出量による当社の環境負荷を考慮したうえで、電力費用のコスト削減が実現できた。更に競争入札により、前年度の数倍という大きな電力費用削減効果を得ることができた。



6. 最後に

この手法により、CO2排出量による環境負荷を考慮したうえでの電力費用削減とともに、次年度に投資する省エネ設備のCO2削減効果が前年の計画段階で把握可能となった。そして競争入札により大きな電力費用が削減できた。

当社で使用しているエネルギーの80%が電力である。この手法を活かして適切な電力会社を選定することで、より一層環境負荷の少ない会社を目指したい。

東邦車輛(株)のエコアクション21 環境活動について

車体工業会 環境委員会
工場環境分科会 委員

東邦車輛(株) 生産技術部
生産技術課 主査
山田 亮雄 氏



1. まえがき

東邦車輛(株)のエコアクション21環境活動について報告する。工場部門では先行して2007年6月に認証取得し、営業部門は2015年6月に、サービス部門は2016年5月に認証を取得している。

また、全社の環境方針に基づき、資源とエネルギーの有効利用並びに廃棄物の削減に対する環境目標を定め、目標達成のために「電気・燃料・水道使用量の削減」、「人・生態系に有害な化学物質使用量の削減」、「紙資源の有効活用と使用量の削減」、「廃棄物の再資源化率向上」の諸活動を実施、定期的な評価と必要な是正を行っている。

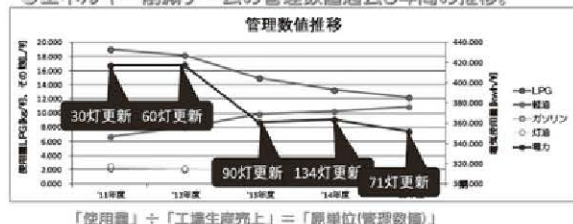
エコアクション21環境活動では、営業部門・工場部門・サービス部門に分かれ、工場部門の中で更にエネルギー削減チーム・廃棄物削減チーム・水削減チーム、製品対応チームがそれぞれ活動している。工場部門では活動拡大のため、「各活動チームリーダーは毎年変える」、「チーム員は工場全体の部署から選出する」、「前年度未達目標必達のために前年度のリーダーをチーム員にする」などの工夫をしている。

工場部門それぞれのチームにおける活動の概要と成果は次のとおり。

2. エネルギー削減チーム

- ・電気使用量等の目標値を設定、CO₂削減の把握、削減活動を実施
- 水銀灯を5年間で省エネ灯計385灯に更新し、使用電力を年間58万kwh削減

●エネルギー削減チームの管理数値過去5年間の推移。

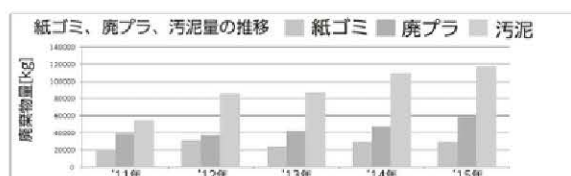


3. 水削減チーム

- ・上水道／工業用水使用量の目標値を設定、総排水量の把握と節水を実施
- 風呂の使用水削減に取組み、利用者のアンケート結果により浴槽からシャワーに更新、夏期2か月間のみで136トン節水

4. 廃棄物削減チーム

- ・産業廃棄物排出量、有価物(リサイクル)量の目標値を設定、排出量削減、有価物増加の活動を実施
- 紙ゴミの有価物化、両面利用、うら紙使用等で産廃物排出量増加を防止



※紙ゴミは、有価物化、社内資料の両面印刷、うら紙印刷等の推奨活動により15年度は増加を抑制できました。

5. 製品対応チーム

- ・製品を「新環境適合ラベル ゴールドラベル」を適合させる活動とPRTR法対象物質

化学物質リスクアセスメントまとめ表

工程	使用用途	使用品名	リスク評価
1. 部品組立工程	組立作業	接着剤、塗料、溶剤	低
	組立作業	接着剤、塗料、溶剤	低
	組立作業	接着剤、塗料、溶剤	低
	組立作業	接着剤、塗料、溶剤	低
2. 塗装工程	塗装作業	塗料、溶剤	中
	塗装作業	塗料、溶剤	中
	塗装作業	塗料、溶剤	中
	塗装作業	塗料、溶剤	中
3. 検査工程	検査作業	検査薬、試薬	低
	検査作業	検査薬、試薬	低
	検査作業	検査薬、試薬	低
	検査作業	検査薬、試薬	低

2016年度から全社活動としてスタート、今後更なる成果にチャレンジしていく。

■「塵芥車解体作業見学会並びに意見交換会」を実施

環境委員会架装物リサイクル分科会(分科会長・新免俊彦・極東開発工業(株)品質保証部長)では、日本ELVリサイクル機構(以下JAERA)、日本トラックリファインパーツ協会(同JTP)及び日本自動車工業会(同自工会)と合同で、7月5日に25名(JAERA・JTP19名、自工会2名、車工会4名)が参加し、JTP協会加盟店である(有)金沢商会(埼玉県三郷市)の見学会を実施した。

同社は自動車中古部品の販売、使用済み自動車の解体等を事業内容としている。

当日は塵芥車(2トン積み)の手バラシの解体作業見学を実施。解体を始める前に、当会のホームページに掲載されている架装物解体マニュアルが準備され、事前に内容の確認が行なわれた。その手順に従い解体は進められ、最初に油圧装置用 작동油抜き、次にテールゲート取外し、艤装品取外し(オイルタンク、フェンダ等)、シャシからボデー取外しと作業は解体マニュアル通りに行われていることが確認できた。



①解体車両



②油圧装置 작동油抜き



③テールゲート取外し

作業見学後の意見交換会では、「油圧装置の搭載車両で、油圧装置内の油を上手く抜けるようにできないか」との提案があり、「現在、油を使わずにすむ電動式の 작동装置を開発検討しています」と回答するなど、活発な意見交換会となった。



④ボデー取外し



⑤切り離し後のシャシ

※①～⑤は解体作業の順番

また、金沢商会より「昔に比べて解体・分別がし易くなった」との意見があった。これまで車工会・自工会が取り組んできた「解体し易い架装物」の活動成果や解体マニュアルの有効性も同時に確認でき、大変有意義な見学会並びに意見交換会となった。

■労政合同分科会を開催

車体工業会の人事労務研究会は、7月21日、日本自動車部品工業会と合同で、当会会議室にて第35回労政合同分科会を開催した。

はじめに、「2016年度採用実績について」、「緊急時の安否確認システムの導入状況について」情報交換を行った。「採用実績について」では会員会社より「内定辞退が発生し、採用活動が継続中である」ことや、「女性の採用を増やす予定である」等の話がされた。「緊急時の安否確認システムの導入状況」では、回答会社28社のうち、導入している会社が21社、検討中が2社、課題として、システムへの登録率の向上及び安否返信メールへの返信率の向上があげられた。

最後に事務局から、2016年度の人事労務合同研究会での事業計画の進捗状況、2016年度春季労使交渉振り返り、経団連からの情報を元にした「最近の労働分野の動き」について説明がされた。



■自動車産業労政合同会議を開催

車体工業会の人事労務研究会は、7月21日、日本自動車工業会、日本自動車部品工業会と合同で、自工会会議室にて第23回自動車産業労政合同会議を開催した。

はじめに、「ダイバーシティ&インクルージョン 多様性の受容と活用」というテーマで内閣府少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリーダーの渥美由喜氏による講演会を実施した。講演は渥美氏の実体験や取り組みを中心に、「女性活躍推進法と次世代法の整合性」、「介護と仕事の両立」、「働き方改革」の最新動向について話がされた。

講演後は参加者との質疑も活発に行われた有意義な講演会となった。

会議の最後に、事務局より「2016年度人事労務研究会事業活動計画進捗状況」、「2016年労働時間実績(1月～6月)」、「2016年労働災害統計(1月～5月)」の状況について説明がされた。

■自動車産業労務担当役員懇談会を開催

車体工業会の人事労務研究会は、8月2日、日本自動車工業会、日本自動車部品工業会と合同で、自工会大会議室にて第12回自動車産業労務担当役員懇談会を開催した。

はじめに、「日本の未来とこれからの経営」というテーマ

でライフネット生命保険(株)代表取締役会長の出口治明氏による講演会を実施した。日本の課題である「少子化対策」や「高齢者社会」、「財政赤字」等に対し、子供を安心して出産できる社会、子供を産んでも困らない社会、子供が多い国が若い国である等、諸外国の政策を例にとりながら説明した。また、自ら会社を辞めて起業をした経験についても話され、参加者から、多数の質問が出て、大変有意義な講演会となった。会議の最後に、事務局から「自動車総連2017年年間カレンダーに関する要請書」、「最近の労働分野の動き(経団連まとめ)」について説明がされた。



労働災害事例をホームページに掲載

安全衛生活動WGは、当会の事業計画の会員支援の一環として、当会会員で発生した「労働災害」と、そこからワーキンググループで研究得た「学ぶべきこと」を労働災害事例として、全国安全週間に合わせ、6月27日に当会ホームページ(会員専用ページ)に掲載しました。

会員会社での安全意識向上と作業安全の確保にお役立て下さい。

また会員各社で発生しました労働災害事例の提供をお願いします。

1. 掲載した労働災害事例(4件)

- ・ 工具箱取付作業終了後、シャシフレーム上の保護カバーを外しエアブローを実施後、タイヤの上から飛び降り着地時に足首をひねり捻挫負傷
- ・ スペアタイヤをシャシ上面から人力で下ろした際に、床面でバウンドして部品棚に倒れ掛かったため、手で押さえようとしてタイヤと部品の間に右手中指を挟み亀裂骨折
- ・ インパクトレンチでボルトを緩める際に、インパクトレンチと構造物の間に指を入れたため指挟み
- ・ 大型バスをリフトで降下作業中、4本のリフトが同調しておらず、1本のみ降下させてしまったため車両が傾きリフトにボデーが接触

2. ホームページ掲載場所



■安全衛生活動WGメンバーによる工場現地 現物確認会実施

安全衛生活動WGは、会員への労働災害事例の提供及び会員の工場を現地現物確認し会員とメンバーの労働安全の向上を目的に活動している。今回、8月14日にメンバー会社8社11名が参加し、メンバー会社である(株)浜名ワークス(静岡県浜松市)の現地現物確認会を実施した。

最初に田村社長より、キャリアカーの分野では国内トップメーカーの地位維持に向けた取組みや、改善効率化提案制度、ISO14001、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)、メンタルヘルスマネジメント検定試験受験、定期的な5S講習の受講など、業務効率や安全・環境に対する活動の紹介があった。

その後、事務所及び工場の現地現物確認を行い、従業員の礼儀正しさや5Sが徹底してできていることに感心した。また安全や作業効率の取組みを確認することで、メンバー会社にとって参考になったことや、メンバーの知見を活かしたアドバイスの実施など、相互にとって大変有意義な確認会であった。



田村社長より会社概要説明



現地現物確認

部会だより

NEWS+FLASH

特装部会

■定期点検推進ポスター・

メンテナンスニュースNo41発行

サービス委員会(委員長・吉田健志・新明和オートエンジニアリング(株)サービス本部情報課長)では、特装車の定期点検推進ポスターを3年ぶりに改訂するとともに、メンテナンスニュースNo41を発行した。

今回のポスターでは、特装車の元気づくりのための定期点検を強調した。また、メンテナンスニュースNo41では、定期点検制度を支える関連法規を紹介している。



特種部会

■工場見学会・合同研修を実施

特種部会(部会長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所会長)では、7月15日、部会員20社52名が参加し、(株)東海特装車(愛知県安城市)の見学及び合同研修を実施した。

今回は、特種部会で推進している人材育成策の一環として工場見学に加え合同研修(改善事例学習)も兼ねて行い、各社の中堅～若手社員を中心にこれまでにない多数が参加した。

(株)東海特装車では、冷凍・保冷車や福祉車両、輸出特装等のトヨタ車に加えて、独自のサービス車両、緊急車両等の一品加工の特種車まで多くのバリエーションを多品種同期生産システムを用いて高品質で生産する工程を見学、参加者はその技術力に感銘を受けた。また、工場のみならず事務所にも、安全に対する取組みや改善の成果が見られることに参加者一同非常に高い関心を持った。特に改善についてはトヨタグループの考え方をもとに、社員一人ひとりが積極的に毎月改善事項を提案していることや、身の回りの細かな部分にも改善が行われていることに対して、自社に持ち帰り是非実践したいという声が多く聞かれた。

見学会の後に行われた懇親会では、仕事の遣り取りはあっても普段顔を合わせる機会のない各社の中堅～若手社員の交流が図られるとともに、業務上の課題を共有する場ともなり、非常に有意義な場となった。



トラック部会

■工場見学会を実施

トラック部会(部会長・田村元・(株)浜名ワークス社長)では、7月8日、部会員26社35名が参加し、(株)オートワークス京都の本社工場(京都府宇治市)と同工場の構内にある須河車体(株)大久保工場の見学会を実施した。

会社概要と同工場の説明を受けた後、マイクロバスと小型トラックの量産車ラインでは、前工程と後工程からの2班に分かれて見学した。工場内は広く清潔で、車両組立のメインラインと同じ建屋内で須河車体(株)がサブアッセンブリラインを受け持ち、効率的な生産が行われていた。更にQC活動等を活用し、特装車のインライン生産の生産性向上、品質向上に取り組んでいることも見ることができ、大変参考になった。

また質疑応答では、特装車の品質面での対応や作業者の技能向上などの意見交換が行われ、大変有意義な見学会となった。



(株)オートワークス京都・工場概要の説明

バス部会

■工場見学会を実施

塗装デザイン研究会(委員長・本庄慶一・ジェイ・バス(株)小松受注設計部主任)は、7月27日、部会員1社3名が参加し、関西ペイント(株)平塚事業所と開発センターを見学した。

平塚事業所では、塗料の要であるワニスを製造する合成樹脂ワニス製造工程と、ワニスと顔料等を混合して最終塗料にする塗料製造工程を見学した。

開発センターでは、塗料に関する基盤研究、塗料研究、塗装研究、色彩技術・デザイン研究に取り組んでいる。光源(LED蛍光灯、ハロゲンランプ等)や背景色の違いによる色の見え方、年代別・国別の色のトレンド、研究者のイメージを具現化した色パネルなど、色研究の奥深さを感じた。また住宅用としてデング熱などの感染症予防に繋がる、塗

るだけで虫が寄りつかなくなる虫よけ塗料などの建築用塗料や、飲料缶などの工業用塗料などの身の回りにある製品の塗料技術の進化に興味深く見学できた。



資材部会

■資材部会見学会を開催

材料分科会(分科会長・吉川徳雄・天龍工業(株)社長)では、7月15日、部会員17社23名が参加し、茨城県つくば市の「CYBERDYNE STUDIO」と「筑波宇宙センター」の見学会を開催した。

「CYBERDYNE STUDIO」では同社がすすめているロボットスーツHALを中心とした最先端福祉機器の説明や実際に腕を動かさずに、脳から出されている信号で器具を操作する体験をした。参加者から同社の今後の計画、取組みについての質問が多数あり、関心の深さが伺われた。続いて「筑波宇宙センター」では、これまでに実際に使用された人工衛星等を管理している「人工衛星保管庫」と「宇宙飛行士養成エリア」を見学。今までに実際に使用されてきた「宇宙服」の特徴や歴史、人工衛星に扱われた素材等についての説明があった。ここでも参加者から多数の質問があり、有意義な見学会となった。



CYBERDYNE STUDIO



筑波宇宙センター

支部だより

NEWS+FLASH

関東支部

■関東支部役員会・見学会実施

関東支部(支部長・上野晃嗣・日本フルハーフ(株)社長)は、8月26～27日、支部長、都県会長、役員の5名が参加し、役員会及び見学会を実施した。

役員会では、各都県会長から上期の主な活動である不正改造車排除運動実施内容の報告、事務局からは車体業界・当会の最近の動きについて報告し、各地区での行政との関わりなどの情報交換をした。

見学会では、陸上自衛隊が毎年行っている富士総合火力演習を見学した。抽選倍率が30倍で、南は九州からも見学に来るほど、人気の高い演習である。当日の演習は、陸上自衛隊の主要装備品の紹介と島嶼部(とうしょぶ:大小さまざまな島がある地域)に対する攻撃への対応であった。主要整備品の紹介では、10式・90式戦車による戦車火力、戦闘ヘリコプター(AH-64D)によるヘリ火力、上空1,000m以上からの空挺降下など、装備品の技術力・威力や扱う自衛官の操縦能力の高さに驚いた。また島嶼部に対する攻撃への対応として重要な「部隊配置」、「機動展開」、「奪回」の作戦様相を取り入れた演習を通じ、事態に即応して任務を完遂できる陸上自衛隊の頼もしさを感じた。



10式戦車などによる
戦車火力風景



輸送ヘリコプター(CH-47)などによる飛行風景



近畿支部

■第7回製造部会を実施

近畿支部(支部長・須河進一・須河車体㈱社長)では、7月22日、支部会員19社32名が参加し、(株)アルナ矢野特車(滋賀県米原市)で製造部会を実施した。

今回の部会では、3班に分けて工場を見学した。特に冷蔵庫のパネル製造工程に強い関心を持った。工場内は整理整頓、従業員の教育、納期管理、品質管理に対する心掛け等、細部まで勉強となった。更に、独自で取り組んでいるエコアクション21について発表があった。全ての従業員に教育が周知できている素晴らしい社風を見られる良い機会となった。



九州支部

■地域ニッチトップ企業工場見学会を実施

九州支部(支部長・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、7月21日、支部会員13社26名が参加し、本部チャレンジ5活動の結果を反映して地域ニッチトップ企業工場見学会を(株)オーレック(福岡県八女郡広川町)で実施した。

(株)オーレックは自走型草刈り機の日本トップメーカー。今までになかった中間領域の製品開発で新市場を開拓し、世の中に貢献することでニッチトップ企業へ発展した貴重な話を聞くことができた。また、部品の製造がロボットにより自動化された効率的な工場を見学することができた。

参加者から、製品、工場内の工夫、今村社長の製品開発の考え方等についての質問が多くあり、その関心の高さが感じられた。



各支部での「不正改造排除に関する講習会」実施一覧

支部名	実施日	講師	参加者
東京都会	6月 15日(水)	関東運輸局東京運輸支局 磯田首席陸運技術専門官 干場陸運技術専門官	15社21名
神奈川県会	6月 23日(木)	関東運輸局神奈川運輸支局 福嶋首席陸運技術専門官 古谷陸運技術専門官	16社19名
千葉県会	6月 23日(木)	関東運輸局千葉運輸支局 田中首席陸運技術専門官 伊藤陸運技術専門官	6社15名
埼玉県会	6月 17日(金)	関東運輸局埼玉運輸支局 小川陸運技術専門官	9社13名
茨城県会	6月 20日(月)	関東運輸局茨城運輸支局 皆川首席陸運技術専門官 自動車技術総合機構茨城事務所 中島自動車検査官	7社11名
栃木県会	7月 1日(金)	関東運輸局栃木運輸支局 吉田技術専門官	12社18名
山梨県会	5月 24日(火)	関東運輸局山梨運輸支局 村松陸運技術専門官 渡辺陸運技術専門官	4社 8名
近畿支部	6月 2日(木)	近畿運輸局神戸運輸管理部 小東陸運技術専門官 自動車技術総合機構兵庫事務所 福本首席自動車検査官	8社10名
	6月 9日(木)	近畿運輸局京都陸運支局 伊藤専門官	10社11名
四国支部	6月 9日(木)	四国運輸局香川運輸支局 遠藤技術課長補佐 阿部技術課係長	12社19名

保安基準等の一部改正について

国土交通省

1. 保安基準等の一部改正について(2016年6月17日)

【概要】

(1) 突入防止装置

UN-R58(突入防止装置に係る協定規則)改訂に伴う改正

- ① 標準位置の情報を表示する記号又はラベルの義務付け
- ② 取付位置、断面高さ、試験時の負荷荷重の変更
- ③ 適用時期：新型自動車は2019年9月1日
継続生産車は2021年9月1日

(2) 後写鏡等

UN-R46(間接視界基準に係る協定規則)の採用に伴う改正

- ① UN-R46の技術的要件の義務付け
- ② 後写鏡の視界範囲の明確化
- ③ 衝撃緩和試験の変更
- ④ 適用時期：新型自動車は2019年6月18日
継続生産車は2021年6月18日

(3) 衝突被害軽減ブレーキ

次の自動車であって車両前部に特殊な装置を有するものが、同装置の対象から除外された

- ① 道路維持作業用自動車
- ② 緊急自動車

(4) その他の改正

- ① 高圧ガスを燃料とする自動車の燃料装置等
- ② 車枠及び車体
- ③ 速度計等
- ④ 自動操舵機能

2. 保安基準の細目告示の一部改正について(2016年6月30日)

【概要】

- (1) 圧縮水素ガスを燃料とする自動車(二輪車、側車付二輪車等を除く)に備える燃料配管等に関し、UN-R134の技術的要件への適合性を課した。
- (2) GVW2.8トン以下の乗用車及び貨物車にあっては、衝突試験後の燃料漏れ要件について、UN-R137(フルラップ前面衝突時の乗員保護に係る協定規則)と整合

させる。

【適用時期】

- (1) UN-R134への適合性については、新型車2018年9月1日
- (2) 衝突試験後の燃料漏れ要件については、新型車2018年9月1日より順次適用
- 3. 共通構造部(多仕様自動車)型式指定実施要領の制定について(2016年6月30日)

【概要】

これまでの通達に基づく「新型自動車届出制度」に代わる認証実施要領として、法律に基づく「共通構造部(多仕様自動車)型式指定実施要領」を制定した。

【施行日】 2016年6月30日

審査事務規程の一部改正(2016年2月5日)

自動車技術総合機構(旧検査法人)

【概要】

- (1) 自動車の直前及び側方の視界を確保するために備えられた鏡又はカメラの審査方法の明確化
- (2) 並行輸入自動車の事前書面審査の審査期間の改正
- (3) 用語の定義拡充
- (4) 共通構造部型式指定制度制定に伴う整理
- (5) その他、附則の拡充、審査方法の明確化、誤記訂正等

【施行日】 2016年7月7日

((2)については、2016年8月1日)

自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金(1次公募)の公募を開始

経済産業省・中小企業庁

「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金(1次公募)」の公募を7月7日付けで開始した。(公募締切は9月30日)

本補助金の目的は、被災者の「働く場」を確保し、今後の自立・帰還を加速させるため、福島県の避難指示区域等を対象に、工場等の新增設を行う企業を支援し、雇用の創出及び産業集積を図る。加えて、住民の帰還や産業の立地を促進するため、商業回復を進めることである。

<補助対象者>

対象地域内において、下記の対象施設を新增設しようとする民間事業者

<対象施設・設備>

- ① 工場 ② 物流施設 ③ 試験研究施設
- ④ コールセンター、データセンターの用に供される施設
- ⑤ 店舗 ⑥ 宿泊施設 ⑦ 社宅 ⑧ 機械設備
- ⑨ 認定復興推進計画に基づく施設であり、福島県知事が

特に認める施設であって、かつ基金設置法人が認める施設
(以下、「知事特認施設」という)

<補助対象地域>

川俣町の一部、飯舘村、葛尾村、川内村の一部、南相馬市の一部、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町の一部、田村市の一部、広野町

<補助率・補助金の上限額>

企業規模や避難指示区域等により、補助率2/5～3/4、補助上限30億円～50億円

【公表日】 2016年7月7日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160617004/20160617004.html>

**「平成28年度中小企業熊本震災復興特別商談会」を開催
～第1回は本年10月に熊本市で開催、発注企業を募集～**

経済産業省・中小企業庁

中小企業庁は、2016年4月に発生した熊本地震により取引への影響を受けた下請中小企業の新規取引先の確保を支援するため、「平成28年度中小企業熊本震災復興特別商談会」を開催する。第1回開催(10月19日)分の発注企業の申込期間は、7月20日～8月12日。

1.開催時期及び場所

(1) 第1回

日時：2016年10月19日 13:00～17:00

場所：ホテル熊本テルサ

(熊本市中央区水前寺公園28-51)

(2) 第2回

日時：2017年1月下旬

場所：ホテル熊本テルサ(予定)

【公表日】 2016年7月20日

<詳細は下記を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2016/07/20160720003/20160720003.html>

**地域発の新たな事業の担い手の創出を支援する
「創業スクール」を全国各地で開講**

経済産業省・中小企業庁

中小企業庁では、地域で創業支援に取り組む方々を応援することで、全国的な創業機運の醸成を図り、地域発の新たな事業の担い手創出のための取組みを進めている。この度、全国各地において、創業希望者の基本的知識の習得からビジネスプランの策定までを支援する「創業スクール」を順次開講する。

<概要>

創業スクールでは、全国各地において、新たに創業を予

定している方等を対象に、経営、マーケティング、会計、税務等のカリキュラムを用意し、創業時に必要となる知識・ノウハウの習得や、ビジネスプランの作成支援を実施することで、創業に向けた一貫したサポートを行う。今年度は、昨年度に引き続き、地域における創業の活性化、創業気運の醸成を図るため、全国各地において、136コースの創業スクールを開講する。

創業希望者のニーズにあわせ、「ベーシックコース」、「第二創業コース」、「女性起業家コース」、「業種別コース」の4つの研修コースを用意している(コースの設定はスクール毎に異なる)。また、各スクールでは開講に先立ち、無料体験講座を開催し、創業スクールのカリキュラムの説明等も行う。

【公表日】 2016年7月15日

<詳細は下記を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2016/07/20160715003/20160715003.html>

「中小企業等経営強化法」が施行

経済産業省・中小企業庁

本法律では、中小企業・小規模事業者・中堅企業等を対象として、①各事業所管大臣による事業分野別指針の策定や、②中小企業・小規模事業者等への固定資産税の軽減や金融支援等の特例措置を規定している。

本法律の趣旨は、労働力人口の減少、企業間の国際的な競争の活発化等の経済社会情勢の変化に対応し、中小企業・小規模事業者・中堅企業(以下「中小企業・小規模事業者等」という)の経営強化を図るため、事業所管大臣が事業分野ごとに指針を策定するとともに、当該取組みを支援するための措置等を講じるものである。

【施行日】 2016年7月1日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2016/07/20160701001/20160701001.html>

経営革新等支援機関として新たに152機関を認定

経済産業省・中小企業庁

中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律第17条第1項に基づき、本日、新たに152の機関を経営革新等支援機関として認定した。これにより、経営革新等支援機関数は25,212機関となった。

近年、中小企業を巡る経営課題が多様化・複雑化する中、中小企業支援の担い手の多様化・活性化を図るため、中小企業に対して専門性の高い支援事業を行う「経営革新等支

援機関」を認定する制度が2012年8月に創設された。

本制度は、税務、金融及び企業財務に関する専門的知識や中小企業支援に係る実務経験が一定レベル以上の個人、法人、中小企業支援機関等を「経営革新等支援機関」として認定することにより、中小企業に対して専門性の高い支援を行うための体制を整備するものである。

【公表日】 2016年6月17日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160617004/20160617004.html>

夏季の省エネルギー対策を決定 ～6月から9月は夏季の省エネキャンペーン～

経済産業省

6月から9月まで、夏季の省エネルギー対策を促進するため省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議を開催し、「夏季の省エネルギー対策について」を決定した。

6月から9月までの夏季の省エネキャンペーンの期間において省エネルギーの普及活動を行い、国民の皆様に省エネルギー対策の実践についての協力を呼びかけていく。

また、政府自らも率先して、冷房中の室温の適正化や照明の削減など、省エネルギー対策の実践に取り組む。

【公表日】 2016年5月23日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2016/05/20160531005/20160531005.html>

「はばたく中小企業・小規模事業者300社」 及び「はばたく商店街30選」を選定

経済産業省・中小企業庁

革新的な製品開発やサービス創造、地域貢献・地域経済の活性化、海外での積極的な販路展開等による国際競争力強化、女性経営者を始めとした人材活用に取り組む、独自の技術・サービスで伸びる取組みを行うなど様々な分野で活躍している中小企業・小規模事業者、地域の特性・ニーズを把握し創意工夫を凝らした取組みにより、地域コミュニティの担い手として商店街の活性化や地域の発展に貢献している商店街の取組事例を「はばたく中小企業・小規模事業者300社」及び「はばたく商店街30選」として選定した。

我が国の事業者の99%を占める中小企業・小規模事業者は、地域経済と雇用を支えていることに加え、我が国の国際競争力と経済活力の源泉である。

【公表日】 2016年5月25日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2016/05/20160525003/20160525003.html>

地域中小企業の人材確保を支援

経済産業省・中小企業庁

地域内外の若者・女性・シニア等の多様な人材から地域の中小企業・小規模事業者の皆様が必要とする人材の確保を支援するため、合同企業説明会や交流会、新人定着研修などを全国各地で実施する。

【公表日】 2016年5月20日

<詳細は以下を参照>

<https://www.chusho-jinzaibank.jp/>

改正育児・介護休業法に関する 周知広報資料について

厚生労働省

厚生省では、2017年1月1日より施行される改正育児・介護休業法についてポスター及びリーフレットを作成した。

<改正のポイント>

- (1) 介護休業の分割取得
- (2) 介護休暇の取得単位の柔軟化
- (3) 介護のための所定労働時間の短縮措置等
- (4) 介護のための所定外労働の制限(残業の免除)
- (5) 有期契約労働者の育児休業の取得要件の緩和
- (6) 子の看護休暇の取得単位の柔軟化
- (7) 育児休業等の対象となる子の範囲
- (8) いわゆるマタハラ・パタハラなどの防止措置の新設

【公表日】 2016年6月21日

<詳細は以下を参照>

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/07/dl/tp0701-1e.pdf>

■経済産業省人事異動

(2016年6月17日付)

製造産業局自動車課長

河野 太志 氏

(前職) 原子力損害賠償・廃炉等支援機構執行役員

※ 前任の伊吹英明氏は大臣官房参事官(商務流通保安グループ担当)に就任されました。



■国土交通省人事異動

(2016年6月21日付)

自動車局次長

島 雅之 氏

(前職) 自動車局技術政策課長

※ 前任の和辻健二氏は退官されました。



会員情報

■入会	正会員	(株)キョーワ 代表取締役 古賀 通浩 〒849-4283 佐賀県伊万里市東山代町東大久保1761-1 TEL:0955-28-5111 【主要製品】活魚運搬車、FRP製品等 【所属部会】特種部会
		(株)城南ホールディングス 代表取締役 中村 貞明 〒400-0054 山梨県甲府市西下条町1347-7 TEL:055-225-5111 【主要製品】レッカー車 【所属部会】特装部会
■代表者変更	正会員	(株)アイチコーポレーション 代表取締役社長 三浦 治
		愛宕自動車工業(株) 代表取締役社長 愛宕 康平
		東亜自動車工業(株) 代表取締役 上木 実
		(株)東海特装車 代表取締役社長 景井 啓之
		日産車体(株) 取締役社長 木村 昌平
		日本機械工業(株) 代表取締役 高田 立雄
		日本車輛製造(株) 取締役社長 五十嵐一弘
		(株)パプコ 取締役社長 サティヤカーム・アーリヤ
		豊和工業(株) 代表取締役社長 塚本 高広
		八千代工業(株) 代表取締役社長 山口 次郎
	準会員	(株)サンゲツ 代表取締役 社長執行役員 兼 インテリア事業本部長 安田 正介
		東洋ゴム工業(株) 代表取締役社長 清水 隆史
		(株)ナンカイテクノート 取締役社長 岩田 一夫
		日本カーバイド工業(株) 代表取締役社長 社長執行役員 松尾 時雄
		日本シーカ(株) 代表取締役社長 チャールズ・キッド
		(株)レゾナント・システムズ 代表取締役社長 倉澤 秀
■本社移転	準会員	自動車車体興業(株) 〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和4-5-5 TEL:048-711-9138
		(株)レゾナント・システムズ 〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-34-26 TEL:045-503-3121

お知らせ

秋季会員大会 のご案内

- ◆日時 2016年11月17日(木) 14:40~18:30
- ◆場所 浜松町東京會館 TEL:03-3435-2611
東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル39階
JR山手線・京浜東北線「浜松町駅」 都営大江戸線「大門駅」
- ◆講演会 ①「4年間のチャレンジ5活動」
講演者：矢野 彰一 氏(株)矢野特殊自動車社長)
②「強く、伸び続ける会社の現場力」
講演者：遠藤 功 氏(ローランドベルガー日本法人会長)
- ◆懇親会 参加費無料
- ◆申込み 当会ホームページに掲載する用紙、又は会員へメール配信する用紙にてお申し込みください。

6月		
7日	バス部会／技術委員会	①バス車体規格集書面審議に向けた資料確認 ②法規改正内容の共有
8日	トラック部会／業務委員会	①営業業務規程のルール作りについて原案を論議 ②非会員会社の正会員化推進は今年度も継続を確認
9日	バス部会／ワンマン機器委員会	カラーLED行先表示器のガラス越しでの色度変化の測定仕様合意
10日	バン部会／技術委員会	①基準化、規格化項目の進捗状況報告 ②冷凍車の市場点検整備状況の日冷工との進捗状況を共有化 ③中央技術委員会各WGの進捗状況を委員間で共有化
13日	特装部会／ダンプ車技術分科会	①飛散防止装置の要件検討 ②番号標の自主基準検討 ③保安基準改正情報の共有
16日	安全衛生活動WG	①労働災害事例の収集及びHP掲載内容の確認・合意 ②今後の活動計画の確認
17日	トレーラ部会／業務委員会	①「トレーラサービスニュース」の見直し項目確認依頼 ②「トレーラ日常点検ビデオ」製作放映内容確認・合意 ③国交省訪問「2015年度トレーラ部会活動成果」報告内容共有
	バス部会／塗装デザイン研究会	①会員向け塗装勉強会の企画案作成 ②大日本塗料㈱へ講師の依頼と企画内容の説明
20日	トレーラ部会／技術委員会	①番号標の自主基準検討・合意 ②「突入防止装置」試験方法について情報共有 ③国交省訪問「2015年度トレーラ部会活動成果」報告内容共有
	トレーラ部会／製品安全委員会	①経年品質保証WG活動状況共有(制度告知グループで活動) ②「トレーラ定期点検ビデオ」製作放映項目確認・合意 ③国交省訪問「2015年度トレーラ部会活動成果」報告内容共有
21日	環境委員会／架装物リサイクル分科会	①「環境適ラベルの社会へのPR」年度計画、及び広告原稿修正内容確認 ②商用車架装物リサイクル自主取組みについて、産業構造審議会への提出資料内容の確認 ③環境負荷物質フリー宣言の100%維持向上について会員の取組み状況報告・確認
	中央技術委員会／経年品質保証WG	①点検整備制度概要の再確認 ②架装物の点検整備制度運用ガイドラインの内容審議 ③国交省への周知・告知方法の検討
22日	特装部会／業務委員会	①2016年度特装部会総会の結果報告 ②担当部会の事業推進状況共有 ③中央業務委員会への報告内容検討
	特種部会／技術・業務合同委員会	①今後の技術課題(R66、WP29、R58)への対応を論議 ②特種車の経年品質制度対象外について共有、論議 ③今後の入会促進活動の継続を論議、決定
23日	中央技術委員会／ 協定規則R58改訂対応WG	①改正された細目告示の詳細説明 ②今後の対応方針検討
	第1回中小会員ネットワーク強化WG	①2016年度活動日程と具体的な内容を論議 ②ネットワークの概念について論議、共有 ③ネットワークに関する好事例を持つ他社訪問実施を決定
24日	環境委員会／工場環境分科会	①VOC排出量について2020年度自主目標を論議 ②CO ₂ 排出量年度実績把握について進め方合意 ③産業廃棄物減量化についての会員支援状況報告
	特装部会／技術委員会	①各分科会の事業推進状況共有 ②各分科会が抱える課題・問題点について討議 ③最新の法令改正情報の共有

27日	バン部会／業務委員会	①仕様確認書と承認印時期の運用状況について論議 ②会員会社の受注・生産状況及び生産人材について意見交換
28日	特装部会／サービス委員会	メンテナンス促進ポスター及びメンテナンスニュースNo41原案最終確認
29日	トラック部会／車両運搬車分科会	①2016年度事業計画の進め方につき論議・決定 ②日本陸送協会との研修会テーマにつき論議
	特装部会／清掃車小委員会	①特装技術委員会の結果報告 ②ISO-TC297の動向最新情報の共有 ③番号標の自主基準検討
30日	特装部会／ミキサ車技術分科会	①特装技術委員会の結果報告 ②保安基準細目告示改正の内容詳細説明 ③番号標の自主基準検討

7月

1日	トレーラ部会／サービス委員会	①「トレーラサービスニュース」の見直し項目確認・決定 ②「トレーラ日常点検ビデオ」製作放映内容確認・合意 ③国交省訪問「2015年度トレーラ部会活動成果」報告内容共有
	中央技術委員会／ 改造自動車の解説本見直しWG	①修正内容の最終確認 ②出版社への入稿手続き
4日	第1回環境委員会	①「環境適合ラベルの社会へのPR」広告原稿に環境省ホームページ掲載追加 ②商用車架装物リサイクル自主取組みについて、産業構造審議会への提出資料内容の合意 ③VOC排出量について2020年度自主目標を論議・決定 ④産業廃棄物減量化についての会員支援状況の共有
5日	環境委員会／見学会(埼玉)	「商用車架装物リサイクル」取組みの一環として、 JAERA/JTP主催による塵芥車の解体作業を見学 ▶P.9
	特装部会／塵芥車技術分科会	①特装技術委員会の結果報告 ②ISO-TC297対応国内審議委員会の結果報告 ③電動塵芥車のJABIA規格改訂検討
	バン部会／部会会議	①基準化、規格化、共通化項目の進捗報告 ②中央技術委員会WGの推進状況を部会員間で共有化 ③本年度秋実施予定の工場見学先の決定
6日	第1回中央技術委員会	①2016年度事業推進状況の確認 ②その他、課題・懸案事項等討議
8日	第1回中央業務委員会	①2017年度税制改正要望案について合意 ②中小企業支援ニーズに関して継続論議を決定 ③コンプライアンス経営支援ウェブサイト開設を決定
	トラック部会／ 部会会議及び見学会(京都)	①開催場所:京都 参加:26社35名 ②調査研究、共通化項目の進捗状況報告 ③本年度秋実施予定の工場見学先の決定 ④㈱オートワークス京都・須河車体㈱を見学 ▶P.12
12日	トラック部会／技術委員会	①調査研究・共通化項目の進捗状況報告 ②中央技術委員会WGの推進状況を委員間で共有化
	特装部会／ 粉粒体運搬車技術分科会見学会(栃木)	①JABIA規格(エア圧送式粉粒体運搬用バルク車の標準仕様)改訂版検討 ②特装技術委員会の結果報告
13日	バス部会／技術委員会	①バス車体規格集改訂内容の再確認 ②ドライバー異常時対応システム標準仕様検討状況の共有 ③法規改正内容の共有

7月

14日	常任委員会	① 経年品質保証制度仕組みづくり進捗確認と進め方論議 ② 当会としての「人材育成への取組み」を論議
	第237回理事会	① 審議事項 第1号議案 新入会員に関する件 ② 報告事項 1) 2016年度事業計画 本部・部会・支部別1/4期実績まとめ 2) 2016年度1/4期 収支実績まとめ 3) 2017年度税制改正に関する要望 4) 新型届出制度から共通構造部型式指定制度への移行 5) 解体作業見学会並びに意見交換会報告 6) 安全衛生活動 7) 東京モーターショー2017『働くクルマ合同展示』 8) 最近の商用車販売及び会員生産台数 9) 最近の官公庁情報 10) その他報告事項
	環境事例発表会(東京)	発表テーマ数：5件(日本トラックリファインパーツ協会、車体工業会 架装物リサイクル分科会、新明和工業㈱、 ㈱オーテックジャパン、東邦車輛㈱) 参加者：44社86名 ▶ P.3
15日	特種部会／工場見学会(愛知)	㈱東海特装車見学会を部会合同研修を兼ねて実施 ▶ P.12
	資材部会／見学会(茨城)	CYBERDYNE STUDIO、筑波宇宙センターを見学 ▶ P.13
19日	トレーラ部会／製品安全委員会	① 国交省プレスリリース「トレーラ火災防止ビデオ」について整備事業者・輸送業者へDVD配布を提案・合意 ② 「トレーラ定期点検ビデオ」作成を目的とし、整備事業所見学会(7/29豊橋：港目工)を提案・合意
20日	トレーラ部会／技術委員会	① 「ナンバープレート」視認性自主基準内容審議・確認 ② 「突入防止装置」細目告示(6/17)について情報共有 ③ 「共通構造部型式指定制度」通達(6/30)情報共有
21日	労政合同分科会	① 「採用実績状況」「緊急安否確認システム状況」等の情報を共有 ② 2016年度事業計画進捗状況他を報告 ▶ P.9
	自動車産業労政合同会議(東京)	① 「ダイバーシティ&インクルージョン多様性の受容と活用」をテーマに講演会を実施 ② 労働時間実績、労働災害統計等を報告 ▶ P.10
22日	バス部会／ワンマン機器委員会(岐阜)	カラーLED行先表示器のガラス越しでの色度変化測定
26日	特装部会／サービス委員会	① メンテナンスニュースNo42(純正部品使用促進)原案検討 ② その他、情報交換
27日	中央技術委員会／ 協定規則R58改訂対応WG	① 保安基準細目告示改正に関する最新情報共有 ② R58-03対応みなしバンパーの扱いについて検討 ③ 新試験法検討
	トレーラ部会／業務委員会	① トラック協会講演担当決定(9/13宮城、10/12大阪) ② トレーラ輸送効率新聞広告実施報告(6/28日刊自動車新聞) ③ 新型トレーラに関する補助金公募の内容共有
	バス部会／ 塗装デザイン研究会(神奈川)	関西ペイント㈱平塚事業所及び開発センター見学 ▶ P.12
28日	商用車ショー企画委員会	① 第45回東京モーターショー2017「働くくるま」合同展示の考え方合意 ② 出展意向アンケート調査の内容確認・合意
29日	特装部会／ 脱着車キャリア・コンテナ技術合同会議	① 特装技術委員会結果報告 ② 脱着装置付コンテナ自動車の解説本改訂版の内容確認 ③ キャリア・コンテナ互換性定期審査の現状確認

8月

1日	中央技術委員会／経年品質保証WG	① 架装物の点検整備制度運用ガイドラインの内容審議 ② 国交省への周知・告知方法の検討	
	自動車産業労務担当役員懇談会(東京)	① 「日本の未来とこれからの経営」をテーマに講演会を実施 ② 三工業会合同活動について状況報告	▶P.10
2日	トレーラ部会／サービス委員会	① 「トレーラサービスニュース」の見直し項目確認・合意 ② 「トレーラ日常点検ビデオ」放映内容最終確認・合意 ③ 国交省依頼「点検整備強化月間(9～10月)」情報展開・共有	
4日	バス部会／ワンマン機器委員会	カラーLED行先表示器のガラス越しでの色度変化測定結果のまとめ	
5日	中央技術委員会／ テールゲートリフタ技術分科会	① R58-03対応WGの結果報告 ② 経年品質保証への取組み検討 ③ JABIA規格(テールゲートリフタの構造基準)改訂版検討	
	バン部会／技術委員会	① 基準化、規格化項目の進捗状況報告 ② 経年品質保証の仕組み作りについて論議 ③ 中央技術委員会各WGの推進状況を共有	
10日	バス部会／技術委員会	① バス車体規格集書面審議結果の共有と対応内容合意 ② バス車体規格集改定版仕上げ ③ 法規改正内容の共有	
23日	トレーラ部会／製品安全委員会	① 経年品質保証WG活動状況共有 ② 「トレーラ定期点検ビデオ」製作放映説明シナリオ確認・合意 ③ 「トレーラ定期点検整備の手引き」修正内容確認・合意	
24日	トレーラ部会／業務委員会	① 各トラ協講演先追加募集について全ト協への依頼結果報告 ② 「トレーラ定期点検ビデオ」製品安全委員会製作について作成支援状況報告	
	安全衛生活動WG(静岡)	浜名ワークス㈱の製造現場と労働安全の取組み見学	▶P.11
25日	トレーラ部会／技術委員会	① 経年品質保証WG活動状況共有 ② 自動車検査独立行政法人による「検査官への講習依頼」を受けた講習会(7/13)実施結果について共有 ③ 「共通構造部型式指定制度」の各社型式づくり方情報共有	
26日	第2回広報委員会・創立70周年史WG	① 車体工業会HPの改善案のデモによる共有・合意 ② 車体NEWS秋号の校正と冬号企画の論議 ③ 創立70周年史レイアウト、記述例の論議、決定	
	欧州視察団結団式	ドイツ商用車モーターショー視察参加会員(出席:9社14名)の結団式及び行程、内容、役割分担の共有	
	特装部会／クレーン車技術分科会	① 特装技術委員会結果報告 ② 衝突被害軽減ブレーキに関するコーションラベル検討	
29日	トレーラ部会／サービス委員会	① 「トレーラサービスニュース」の項目別内容確認・合意 ② 「定期点検整備の手引き」の見直し内容確認・合意	
30日	特装部会／サービス委員会	① メンテナンスニュース№42(純正部品使用促進)原案検討 ② その他、情報交換	



磯野 栄治 代表取締役社長



DATA

- 本社 〒990-2226
山形県山形市西越25番地
TEL 023-624-1711
FAX 023-632-0681
URL <http://www.isono-body.jp/>
- 資本金 3,630万円
- 従業員 98名
- 事業所規模(本社工場)
敷地 約10,325㎡
建坪 約4,196㎡
- 車体工業会加入
2006年(トラック部会)



(株)いそのボデー

従業員一人ひとりの知恵を活かして
“考える”モノづくりを推進していく。

創業1927年の歴史を誇る(株)いそのボデーは、「3S活動」や社内イノベーションを推進し、効率的な生産環境を構築している。個性あるトラックボデーメーカーとして、さまざまな挑戦を続けている企業である。

取材／車体工業会事務局次長 兼 業務部長 色摩 隆一

● 特徴・沿革

(株)いそのボデーの創業は昭和初期の1927年まで遡る。創業者である先々代社長は、山形県内において大八車の製造・修理・販売を行っていた。自動車時代の到来とともに、幌車を中心とした自動車のボデー製作・修理業を開始した。

1964年に「(株)磯野ボデー製作所」として法人化。平ボデーやウイングパンの架装を中心として事業を拡大し、1973年に現在の敷地に工場を新築して移転、1985年に「(株)いそのボデー」に社名を変更した。90年近くの長い歴史を車体業界の発展とともに歩んできている老舗企業である。

「3S活動」「エコアクション21」にも積極的に取り組んでおり、日本そうじ協会が主催する「掃除大賞」では2015年に経済産業大臣賞、2016年にイノベーション賞を受賞している。

「チョコ案制度」という従業員のアイデアを実行・報告する制度を実施して、すべての従業員が考えて実行する力を磨き続けている。

「3S活動」では、工場内の随所に担当者を決めて、清掃活動を徹底している。また部品や工具の並び方も作業の効率を考えられた配置になっており、日々改善が図られている。

基礎技術の向上とともに応用技術の開発にも力を入れている。



3S活動で工場の清掃は行き届いている



部品や工具が決められた位置に整然と並んでいる



担当者は写真入りで責任を持って実行



2015年の掃除大賞では経済産業大臣賞を受賞

製品

— 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

大型、中型、小型の様々な種類のトラックボデーの架装を手掛けています。レーザーカッターによる部品製作をはじめ、架装から塗装までを一貫して自社で行うこともできます。また特殊な車両の製造や修理の依頼にも対応しています。



レーザーカッターで部品を自社製作

自社による独自の技術開発にもこだわり、特許の取得に積極的に取り組んでいます。

当社で独自に開発したリモコン式オートロック自動スライドドア「iSkipドア」では、リモコン制御の難しさに大変苦労しました。現在も更なる性能アップを目指し、様々な研究開発を続けています。



塗装ブースもきれいに清掃されている

「iSkipドア」の動作



鍵穴がないスッキリとした後部はオートロック

片側がリモコン操作で自動でスライド

戸袋側のドアを開いてフルオープンにもできる

— どのような車体を手掛けているのでしょうか？

様々な架装を手掛けていますが、昨今はセキュリティ対策に注目が集まり、前述の「iSkipドア」への問い合わせも増えています。

「iSkipドア」はリモコン操作で簡単にドアの開閉ができるので、ドライバーの負担を軽減できます。

更に「iSkipドア」が注目されている点は「セキュリティ強化」です。自動ドアなので、短時間でも荷室のドアを開け放しになることがなくなります。また荷室ドアはオートロックで外側から鍵穴が見えないので、鍵を破壊して開けることができません。

夜間駐車時や管理者が車両から離れている際の積載物への異物混入や、積載商品の盗難を未然に防止する効果をあげています。

当社はTAPA※の会員企業であり、物流セキュリティに関して今後も研鑽を続け、ユーザーが安心して物を運ぶことができる架装を提供していきたいと考えています。

※ Transported Asset Protection Associationの略称。ハイテク製品の保管・輸送中の紛失・盗難などでの損失防止を目的に、1997年、アメリカで設立された

— 御社の経営方針は？

「モノづくり」は、従業員一人ひとりの「知恵」の結集であります。

弊社では「チョコ案制度」によって、従業員全員が考える力とアイデアを積み重ねています。

これからも物流は高度に進化していきます。この進化に対応するために毎日の仕事の中で、知恵を育み、力を培っていくことが重要です。

人

— 御社の特徴は？

比較的若い世代も多く、平均年齢は30代となっています。

「チョコ案制度」は、業務や環境を改善する“チョコ”としたアイデアを、毎月1人が各1案以上を実行して報告する制度です。全員が毎月提案する努力を2年間継続できています。これは膨大な知恵の資産です。

全員が、どうすれば仕事を効率よ

く行うことができるのかを常に考えているので、自分の意見を言いやすい環境作りにも繋がっています。



— 次世代の教育について

経験や技術を要する作業はベテランが行い、新しい技術には若い従業員を中心に担当させています。

技術研修会にも積極的に参加するように促しています。研修してきた内容は、全員で共有して実際の仕事に役に立てて、どのように活用できるのかを大事にさせています。

金属調塗料への飽くなき挑戦

大日本塗料(株)

大日本塗料(株)は、(株)島津製作所から発祥の日本電池(株) (現(株)ジーエス・ユアサコーポレーション)の塗料部門から分離独立して1929年に設立し、重防食塗料を中心に日本の塗料技術をリードして、自動車用塗料、プラスチック塗料等、あらゆる分野の塗料の開発を行っている。また、国内をはじめ海外にも多くの生産・販売拠点を有し、連結売上高750億円を超える一部上場企業である。

高まり続ける塗料への要望

自動車の内外装に使用される塗料は多種多様に亘り、グローバル化、スタンダード化していく世界において、VOCやCO₂削減等、求められるスペックも年々高度化している。一昔前に比べると、色褪せた中古車を見かけることがなくなったのも塗料・塗装の進化の賜物であろう。

近年では、化粧品や日焼け止めクリームによる劣化への耐性やミリ波レーザー透過性能等の新しい要望も増えている。時代に対応した開発スピードを求められる業界である。

高輝度メタリック塗装

金属調の光沢感を出すメタリック塗装は、自動車用途では、長年に亘り注目され続け、時代に合わせた内外装のニーズに塗料メーカーは応え続けている。

軽量の樹脂素材に重厚な金属感を与えることを目標とし、ABS樹脂に塗装することで輝度の高いフロムめっきのような意匠を表現することが、塗料メーカーが追いつけるテーマである。およそ10年程前に、蒸着アルミフレークを使用し、独特な高級感のある金属調を実現した「スーパーブライトシルバー」が大日本塗料(株)によって製品化された。

しかし薄膜フィルムに挟んだアルミを微細に粉碎した蒸着アルミフレークは、塗料との相性が良いとはいえず、耐性にも弱い。そのため塗装工程は①下地処理をし、②そ

の上に塗装をかけ、③更にトップコートを塗る「3C3B※」であった。作業性・コスト面で拡販することが難しい商品であったため、一部の高級車や趣味の範囲



限りなく金属に近い輝きの塗装

※3C3B=塗装工程の仕様を表す3コート3ベークの略。下塗り(焼付)→中塗り(焼付)→上塗り(焼付)の工程を意味する。

粉碎法アルミを使用した「アクリタンMY-51」の開発

拡販できる商品を目指し、アルミ素材メーカーとタイアップして開発したのが「アクリタンMY-51」である。アルミメーカーとともに塗料開発のノウハウを注ぎ込み、幾多のトライ&エラーが繰り返された結果、製品化を実現した。



従来のアルミ(電子顕微鏡)



光輝性のアルミ(電子顕微鏡)

平滑で均一にアルミを配勾させる塗料樹脂技術と、塗料に粉碎した微細な鱗片状の特殊なアルミを混ぜることによって、塗料自体の反射率を向上させ、高い金属調を実現している。塗装直後のウェット状態から、乾燥していく過程でアルミが平たく均一に並び、より光沢度を高めている。その輝きは蒸着アルミフレークにかなり近づいた。



更に「スーパーブライトシルバー」よりも少ない「2C1B」の工程で塗装ができるので、作業性・コスト面においても拡販できる商品として、十分なポテンシャルを持たせることにも成功している。「アクリタンMY-51」が、金属調塗料の新たな需要を掘り起こしていく。

大日本塗料(株) 代表取締役社長 岩浅 壽二郎

大日本塗料は、新しい価値の創造を通じて地球環境や資源を護り、広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に貢献できる企業を目指します。

【本社】〒544-0012 大阪府大阪市此花区西九条六丁目1番124号

Tel: 06-6466-6661 <http://www.dnt.co.jp/>



山口 正夫

宮部 貞宏

塗料事業部門 車輛産機・プラスチック 車輛産機・プラスチック塗料
塗料事業部 副事業部長 事業部 チームリーダー

私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

硬質ハードコート

(株)レニアス

(株)レニアスは1976年創業、広島県三原市の本社工場ではポリカーボネート(以下PC)加工製品を、2015年に栃木県小山市に建設した側窓組立工場ではバスの窓枠ユニット等のアルミ加工製品を製造・販売している。

社名は「REACTIVE(反応の早い)+NICETY(正確さ)+ASSOCIATION(連合)」の3つの言葉から成り立ち、すばやく反応する集団を意味している。

軽くて割れにくいポリカーボネート(PC樹脂)

PC樹脂はガラスと比べて、重量は1/2、耐衝撃性で250倍を誇り、透明かつ軽量で割れにくいという長所を持つ。

(株)レニアスで作るPC樹脂は、建設機械のキャビン開口部に採用されており、建機オペレーターの安全確保と視認性の向上に貢献し、国内シェアはNo.1となっている。

飛び石で割れることも少ないため、乗用車のライトやセンサー類のカバーにも採用されている。形状加工も容易で、複雑なデザインによって、窓・スポイラー・ライトカバーの複数の機能を一体化することもできる。

こうした特性により、新幹線や大型バスの側窓にも採用実績を持ち、その用途は広がってきている。海外では欧州車を中心にPC樹脂の窓への採用も増えてきている。

しかし、優れた機能の反面、キズがつきやすい・黄変しやすい・薬品に弱い、というイメージがある。これらの問題は表面にコーティング加工(ハードコート)を施すことで改善でき、その技術は年々進んでいる。

「光改質工法」でECE認証「Lクラス」を取得

(株)レニアスが開発したコーティング技術は、PC樹脂に施したハードコート面に、特定の波長の光を照射することによって、ガラスと同等の表面硬度を実現する特許技術だ。



岩井 和史
業務本部 開発室
シニアエンジニア 工学博士

前田 佳紀
業務本部
営業グループ

キズがつきやすいPC樹脂をガラス同等の硬度に近づけるには、ガラス膜を蒸着させる米国の技術しかなかった。

自動車への採用を加速し、PC樹脂市場の拡大を目指している



(株)レニアスでは独自技術の開発に力を注いだ。

2007年頃、「光改質」についての防衛大学の論文が開発者の目にとまる。大学とコンタクトを取り、技術交流していく過程で、2008年には開発者を大学の基礎研究に3年間参加させる。社内においては、研究成果を基にして光照射設備の設計・構築が進められた。2012年に大学から開発者が戻り、社内で更なる研究開発を行い続け、2014年頃、ようやく製品化できる手応えを感じることができたという。

この特許技術によって、作られるPC樹脂の表面は耐摩耗性で1.3%(ガラスは1.2%)を実現し、ECE規格のLク



ラスを取得、日米欧でフロント以外のすべての窓部分に使用することができる硬度を実現した。(株)レニアスではこの技術を米国の化学材料メーカーに技術供与し、自動車市場における硬化PC樹脂採用の実績の拡大を図っている。

4,000tのプレスインジェクション成型機

2014年には広島県三原市にある本社工場内に、国内最大級となるプレス能力4,000tの射出成型機を稼働させ、最大1,400×2,000mmのPC樹脂を成型できる。光改質工法の更なる研究も進められ、ガラスからPC樹脂へのプレイスルーに向け、着実に準備を整えている。



(株)レニアス 代表取締役社長 前田 導
「安全と信頼のモノづくり」を通して
人と地球に優しい未来を創造します。

【本社】〒729-0473 広島県三原市沼田西町小原200番地の76
Tel : 0848-86-1137 <http://www.renias.co.jp/>

知りたい

「バスタ新宿」って何？

そこが

第30回

新宿駅の乗降客数は、1日あたり約350万人で世界一となっている。街とともに駅の整備は進んできたが、高速バスの乗降場は限られたスペースで駅周辺に分散し、バス利用者の利便性向上が必要であった。駅周辺のまちづくりでは、初めて訪れた人にもわかりやすく、環境対策にも通じる渋滞の解消など、様々な課題をあわせて解決することが望まれた。

そうした中、今年4月4日に日本最大規模のバスターミナル「バスタ新宿」が開業した。今回は開業からまもなく6か月を迎える「バスタ新宿」について紹介する。

Q1 「バスタ新宿」計画の背景は？

新宿は交通連節機能の充実とともに様々な機能が高度に集積し、確実な対応を図るため将来に向け新たなまちづくりに取り組んでいる。

一方、高速バスの利用が増加するなかで新宿駅周辺の乗降場は19か所に分散し、利便性の向上や周辺の交通渋滞の解消が課題となっていた。

そこで、高速バスにタクシーも加えた公共交通インフラを地域、利用者の視点で新宿のまちづくりとも連携し乗降場を1か所に集約する計画が立案され、「バスタ新宿」は2006年に起工、本年4月4日に開業した。



【出典:ジョルダンHP】

Q2 「バスタ新宿」の概要？

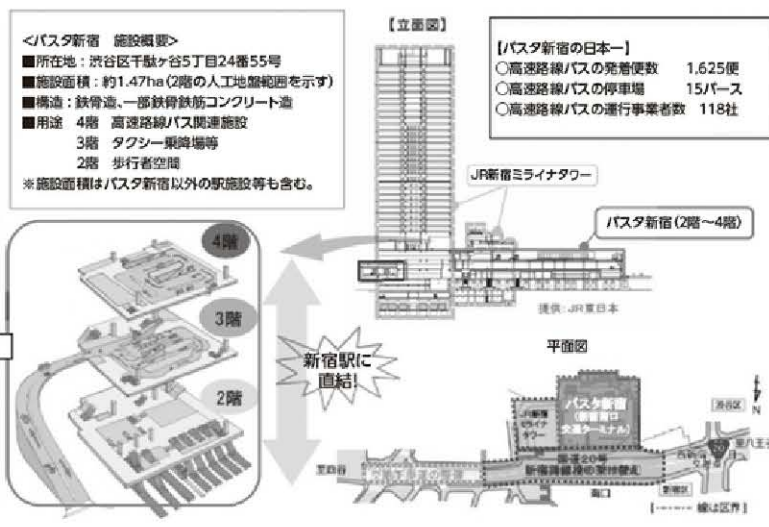
- ▶ 「バスタ新宿」という名称は国内外からの応募により決定したもので、正式名称は「新宿南口交通ターミナル」。
- ▶ 全国39都府県・300都市と新宿を結ぶバス会社約120社(空港バス含む)、及びタクシーの乗降場を設置したターミナル。
- ▶ 経営は、「新宿高速バスターミナル(株)」。



【出典:SUUMOジャーナル】



【出典:新宿高速バスターミナル(株)】



【出典:国土交通省関東地方整備局記者発表資料】

Q3 「バスタ新宿」の効果は？

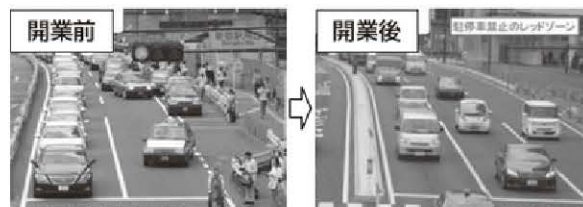
① 新宿駅周辺19か所に点在した高速バス乗降場を集約

これまで高速バス乗降場が19か所に点在し、新宿駅の直近の改札からの移動に最大14分を要したが、バスタ新宿ができたことにより13分短縮され1分となった。また、バス利用者の待合場所も室内となり環境が改善された。



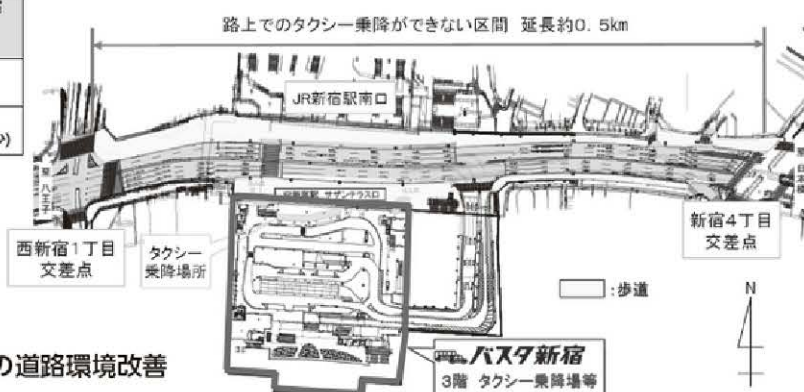
② 国道20号の渋滞緩和

国道で待機するタクシーをバスタ新宿に集約したことにより、国道20号の渋滞が大幅に緩和。タクシープール付近で20時台にピークを迎えていたタクシーの待機車列(最大16台)も解消し、渋滞解消。また、安全面ではタクシーの乗降や待ち車列がなくなることで、人身事故件数や危険回避の急ブレーキの回数が減少し、道路交通の安全性も向上。



渋滞緩和の状況

交差点	バスタ新宿 開業前 (2015.11)	バスタ新宿 開業後 (2016.5)
1. 西新宿1丁目 (東向き：四谷方面)	140m	ゼロ
2. 新宿4丁目 (西向き：八王子方面)	560m	340m (約40%減少)



③ 歩行空間の改善・新宿駅西口周辺の道路環境改善

歩道が広くなり、安全で快適な歩行空間が確保。道路環境では、バスタ新宿に高速バスが集約され新宿駅西口中央通りを走るクルマの平均走行速度が上がった。中央通りでは、平均走行速度が18.1km/hから27.6km/hに52%向上。そして、100台当たりの急ブレーキ発生回数が10.0回から6.7回に33%減少。



【画像は オートックワン(株)HPより】

Q4 これからの取組みは？

「バスタ新宿」は交通の要所で多くの人が集う場所を快適にすることができた。新宿駅周辺のまちづくりはこれからも進められ、「バスタ新宿」はその中でも象徴的な役割を果たすものと考えられる。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、道路を含めた交通インフラの整備も進んでいる。今後も海外からも多くの方が来られ、バスを利用される。それまでに更に魅力的な、そして用途に適合し、お客様に感動を与えられる「バス」を投入していくことが必要である。車体工業会もこうしたことを見据え、バスの役割を向上させることに取り組んでいく。

第14回：水タンクローリについて

水といえば生活と深い繋がりがあり、上水道や工業用水など、多量に使用されています。また、量が少ないながらも、道路や工場内のストックヤードなどへの防塵のための散水や放水、トンネルや道路の高圧水による洗浄、飲料水の供給、火災現場での消火用水など重要な役割を持つ水もあります。

これらの水を供給する特別な装備を備えた水タンクローリについてご紹介します。

①給水車

災害や断水などの緊急時に飲料水の輸送や給水活動を行う車両で、タンクの材質にはアルミ製とステンレス製の2種類あります。高圧型のポンプを備えており、高層階へ給水可能なほか、タンク後方に設けた蛇口からも給水可能です。

アルミタンク給水車

写真提供：極東開発工業(株)

ステンレス製のタンクと比較して軽量化が可能のため、積載容量2,000Lを確保しつつ車両総重量を5トン未満に抑えることができました。これにより、普通免許で運転可能となるため、緊急時でも運転者選びに苦勞せず使用できます。

本年4月に発生した熊本地震の際は、アルミタンク給水車が極東開発工業(株)より寄贈され、熊本県内の大津町大津南部工業団地や西原村での断水の地区、ボランティアの皆さまのキャンプ村での給水活動に使用されました。そして、現在も、地震に加え大雨被害による断水が続いている南阿蘇村の立野、長野、沢津野等6地区で、町役場による給水活動が続いており、被災された地区の住民の皆さまに感謝されています。



大津町での寄贈時



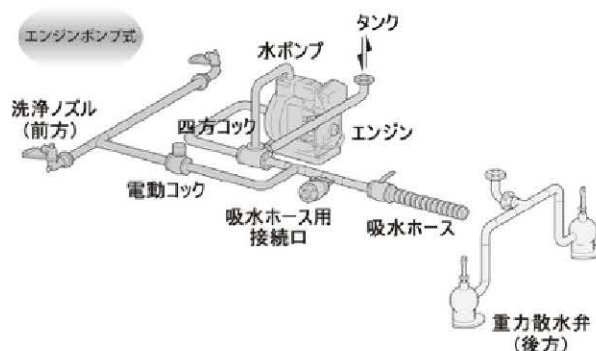
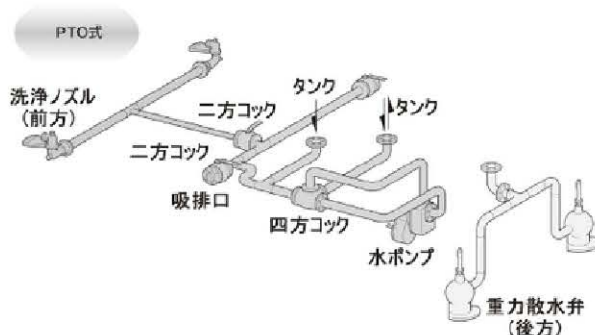
西原村キャンプ場での給水活動



南阿蘇村袴野集会所での給水活動

②散水車

路面清掃や粉塵防止が主な役割で、活躍する場所は工事現場や工場構内がほとんどです。また、環境意識の高まりにより需要は増加傾向にあり、小型車から大型車まで幅広く製造され、水ポンプ駆動方法や散水装置など、用途に応じて様々な機種があります。



標準散水車

写真提供：新明和工業㈱

2トン～4トン車級が主流で、中でもこの標準散水車が占める割合が非常に高くなっています。標準散水車は水ポンプの駆動方式の違いにより「PTO式」と「独立エンジン式」に分類されます。

PTO式は車両エンジンで水ポンプを駆動させるため、構造がシンプルでメンテナンス性に優れています。

一方、独立エンジン式は基本構造はPTO式と同一で、水ポンプを小型専用エンジンで駆動させます。車両から独立した小型専用エンジンを用いるため、車速に関係なく水ポンプの回転数を調整できる特長があります。

近年、散水車はレンタカーとしての需要が増加しており、誰でも簡単に操作できる必要があり、操作性や作業性といった点が重要視されています。



前方洗浄 後方重力散水

高速道路仕様散水車

写真提供：極東開発工業㈱

主に散水による道路清掃や冬季の凍結防止剤散布などを行う際に活躍します。

油圧ポンプ制御により車両の走行速度に関わらず水ポンプの回転数を変化させ、単位面積あたりの散布量を一定に保つことができる「車速同調装置」を備えています。

散水口は、通常車両前後に備えています。側面にも備えた車両では、トンネル内の清掃も可能です。

車両後方には車載標識装置と追突衝撃緩和装置を備え、後方への注意喚起と作業時の安全確保が図られています。また、車両によってはキャブ前方に脱着式のスノープラウを装備したものもあり、散水車+除雪車としての役割も果たします。



側方洗浄



後方洗浄



前方洗浄

放水銃付散水車

写真提供：㈱モリタエコノス

主に製鉄所や競馬場の構内で、高所の清掃や広範囲へ散水する際に活躍します。

放水銃をキャブ前方、タンク上部やブーム先端などに備え、大量の水を放水できるように高圧・大容量の水ポンプを大型独立エンジンで駆動させます。



製鉄所内での放水作業

Member's Essay COFFEE BREAK

ドライブ

愛宕自動車工業株 荒木 優菜

2年前に高校を卒業して社会人になり、同時に自動車の免許を取得しました。免許取り立ての頃は運転するのが怖くて、通勤の30分でも結構疲れるくらいでした。慣れてくると運転が楽しくなり、遠出や旅行をする機会が増え、趣味の一つになりました。

私の趣味は歌手のコンサートに行くことです。学生の頃からコンサートに行っていたのですが、移動手段が限られていて、アルバイトもしていなかったのでお金がなかったため福岡や大分など近場の会場しか行けませんでした。ですが、社会人になってから自分で稼げるようになり、自動車も運転できるようになったので、遠くの会場にも行けるようになりました。

社会人になって初めて遠征したのが大阪です。関ジャニ∞が中学1年の頃から大好きで、彼らの出身地である大阪に行くことが



左が筆者

夢でした。大阪の会場は野外で、九州の会場とは規模が違い大きく、10周年記念のライブでもあったので感動的でした。次に遠征したのが鹿児島です。鹿児島までは自動車のみで東九州自動車道を通り、片道5時間ほどかけて行きました。5時間連続で運転したのはこの時が初めてで、日帰りであり観光もできず疲れましたが、パーキングエリアなどで各地方の様々なものを見たり買ったりして楽しかったです。

学生の頃は、福岡ドームまで電車で行っていたのですが、今年から車で行くようになったので、電車の時間を気

にせずに済むようになりました。今年の夏のコンサートには抽選に外れてしまい行けないので残念です。今年の夏は長崎旅行に行く予定なので思いっきり楽しみたいです。



※写真3点は、執筆者の意図により、写真加工アプリで反転しています。

バイクと飛行機

竹腰工業株 代表取締役 竹腰 清美

子供の頃から乗り物全般が好きで、特にバイクと飛行機は、見かけたり音を耳にするだけで気持ちが高揚し、顔がにやめます。

バイクは、乗り続けて32年(因みに今年50歳)、最近話題のリターンライダーではないことが自慢です(笑)。何が魅力かといえば、ちゃんと扱わないと転ぶこととスーパーカー並みの加速性能が1/20程度の価格で手に入ることですね。

バイクの加速といえば、映画「TOP GUN」の主人公が滑走路でジェット機と競争をするシーンがあり、公開当時あこがれて、近くの航空自衛隊岐阜基地の並進する国道21号線をよく走りました。

仕事(社用車)で、今でも21号線をよく走行しますが、ジェット機と並走する時があり、その頃を思い出しますね。

話は変わって近年、飛行機は話題が多く、近々では、千葉で行われたエアレースで日本人パイロットが優勝し、TV



観戦でしたが偉業達成に涙しました。(昨年のWCAPラクビー南ア戦勝利並みの価値だと思う)

古い機体だと、大戦機「飛燕」が各務原に里帰りし復元プ



ロジェクトの開始、熊本空港では「ゼロ戦」が慰問飛行して話題になりました。

それと、国産航空機が続々と初飛行しています。民間機では「MRJ」が、自衛隊機では「次期輸送機XC-2」、「先進技術実証機X-2：心神」が飛行試験を開始し、空を見上げる機会が増えました。実は、私の前職は航空機の維持設計者でした。ライセンス生産がほとんどでしたので、国産機がここまで来たと思うと感無量で、携わった人たちに敬意を表したいです。

先日世界一周を成し遂げた「ソーラーインパルス2」も昨年、偶然目撃、突然の名古屋空港飛来で夜間だったため、特異な機体形状からUFOかと周囲がザワつきましたけど。

チャレンジ精神に感動しました。

最後に私の住む、岐阜県各務原市の「かかみがはら航空宇宙科学博物館」では大規模リニューアルが始まり、



再オープン(2017年度予定)が楽しみです。

夏の楽しみ

日立キャピタルオートリース(株)

業務管理本部副本部長 兼 サービス本部 車両企画部長

澤柳 健輔

その1～都市対抗野球の巻～

弊社が所属する日立グループの日立製作所野球部は茨城県日立市代表で今年も東京ドームで熱戦を展開しまし

た。我々グループ社員も例年7月になるとはビールを片手に熱き応援合戦を楽しんでいます。

ここ数年は2回戦進出程度の実力でしたが創部100年のメモリアルイヤーの今年は、1回戦は延長の接戦の末に三菱重工神戸に4-3、2回戦は日本通運に8-3、3回戦はホンダ鈴鹿に6-1、4回戦準決勝も強豪東京ガスに2-0で勝ち進み、遂に決勝戦進出もトヨタ自動車に4-0で惜敗ですが初の準優勝!!

趣向を凝らしたチアガールと応援団もプロ野球と違

う魅力で、応援団コンクールは見事に最優秀賞ゲット。

大声で「かつ飛ばせー!!」と

やって、勝っても負けても美味しい酒に酔えば爽やかなストレス解消になりました。

その2～阿波踊りの巻～

夏の後半の楽しみは高円寺で8月下旬に繰広げられる「東京阿波踊り」です。本場の徳島大会の規模を凌ぐ2日間で約100万人が繰出しその人気の程が窺えると思います。

小生は踊る阿呆の約1万人に混じって、踊りと観衆の歓喜に包まれる訳です。

所属するのは約40年前に新宿ゴールデン街のスナックで産声を上げた「中々連」です。ポリシーは各々の個性で楽しく踊って美味しい酒を楽しみ、決して体育会系の踊りは好まぬ大人の集団です。

今年の本番はまだなので写真は練習中のものですが、本番ではお囃子と「ヤットセイ」の掛け声、威勢良い男踊り、艶やかな女踊りの熱狂の世界に包まれて小生の夏はフィナーレを迎えるのです。



日本リフト(株)
営業部 営業課
たに ようへい
谷 洋平さん



種蒔きとしての
営業活動の大切さ
を感じます。

日々、安定した
作業を心掛けて
います。

八千代工業(株)
組立課 エンジン係
あくたがわ う い
芥川 羽衣さん



Q1 どんなお仕事ですか。

国内唯一の荷役機器の専門メーカーです。主に、リフトゲートを開発・製造し、トラック、商用車・福祉車両・特装車向けの多くの製品を取り扱っています。営業職として、お客様の所へお伺いし、製品のご案内やご提案をしています。

Q2 仕事で楽しいときは

お客様からお問い合わせや、最終的なご注文をいただいたときです。また、御注文をいただけなかった場合でも、1年前よりも上手にできたり、貢献できたりすることがあると、自分の成長を感じ楽しみを覚えます。お客様の多種多様なご要望に応えられるように、今後も成長できればと思います。

Q3 仕事でつらいこと

お客様のご要望にお応えできないときです。仕様・予算・納期等で、100%のお応えができないとき、残念に思います。その様々な制約の中で、お客様にご満足いただけるモノづくりをし、価値を感じ取っていただけるよう、努力しています。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

入社1年目の頃、新規に訪問させていただいたお客様から、指名でご連絡をいただけたことが嬉しかったです。残念ながら受注に結び付きませんでした。種蒔きとしての営業活動の大切さを感じました。この体験を次に繋げるために、その後も多くの新しいお客様への訪問活動を続け、受注に繋げることもできるようになりました。

Q5 御社のPRをしてください！

リフトゲートの製造・販売を軸に、油圧機構を応用した車体安定ジャッキ等の新規開発も手掛けています。新しいニーズに応えることを模索し、試作開発を行っています。今後も荷役機器の専門メーカーとして、荷役作業の一助としてお役立ちできるよう、お客様のご要望に応え続けていきます。

Q1 どんなお仕事ですか。

エンジン部品を取り付ける仕事をしています。入社して8年ほどになりますが、4年前までは事務関係の仕事をしていましたので、部品名、工具の使い方など覚えるのに初めは大変苦労しました。現在はライン作業にも慣れ、日々、安定した作業を心掛けています。

Q2 仕事で楽しいときは

ライン作業につくようになってからは街中で走っているトラックやバンを見ると、自分が部品を取り付けた車かもしれないと思い、ちょっと嬉しくなります。

Q3 仕事でつらいこと

この仕事を始めた頃はライン作業についていけず、追いつこうと焦るあまり不良を出してしまうことがありました。今ではそんなことはありませんが、当時はついていけないことが大変悔しく、どうすれば不良をださず、ライン作業についていけるか、いつも考えていました。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

QC発表という年2回、職場の困り事をテーマに、改善したことを発表する場があります。そこで私は発表者の役をいただき、いかに改善したことを伝えるか、何度も練習を重ね、少し緊張しましたが発表し、賞をいただくことができました。

Q5 御社のPRをしてください！

八千代工業(株)はお客様の満足のために卓越した技術と特長ある製品を供給するために従業員一丸となってがんばっている会社です。

2016年1月～2016年6月 会員生産状況概要

① 合計

- ・ 1月～6月の累計台数は前年比7.3%減と2014年から2年連続して前年割れ
- ・ 乗用・小型商用・軽の委託生産車及び特装車の輸送系(リヤダンプ車・ミキサ車)が前年割れとなったこと等による

② 非量産車

- ・ 1月～6月の累計台数は前年比3.1%減と2011年以降5年ぶりに前年割れ
- ・ バン、トレーラ、大中型バスは昨年に引き続き前年超えとなったが、特装車が輸送系(リヤダンプ車・ミキサ車)の減少で大きく前年割れとなったため

③ 特装車

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比20%減。昨年7月より12か月連続して前年割れ。特に輸送系の減少が大
- ・ 輸送系ではこれまで牽引してきたリヤダンプ車・ミキサ車が減少。作業系の塵芥車・高所作業車は好調を維持

④ 特種車

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比1.8%減
- ・ 量産系は警察車両が増加したが、車いす移動車が減少したため同2.3%増
- ・ 非量産系は現金輸送車、消防指揮車等が増加したが、救急車、入浴車等が減少したためほぼ前年並みの同1.0%減

⑤ 平ボデートラック(除くシャシメーカー標準車)

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比2.3%減、大型・中型が減少。

台数規模の大きい普通型あり、深あおりはほぼ前年並みだが、車両運搬車が減少。各社とも6か月以上の受注残有。生産能力が限界のため増産は困難

⑥ バン

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比12%増。前々年に対し17%増と好調、受注残1年以上
- ・ 車種別には、ドライバン・冷凍車・ウイングの全てが好調

⑦ トレーラ

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比13%増。昨年4月以降13か月連続で前年超えであったが、5月は前年水準が高かったため前年割れしたが、依然好調を継続。受注残は6か月以上
- ・ 車種別では、主力のコンテナが同15%増、バンが同34%増

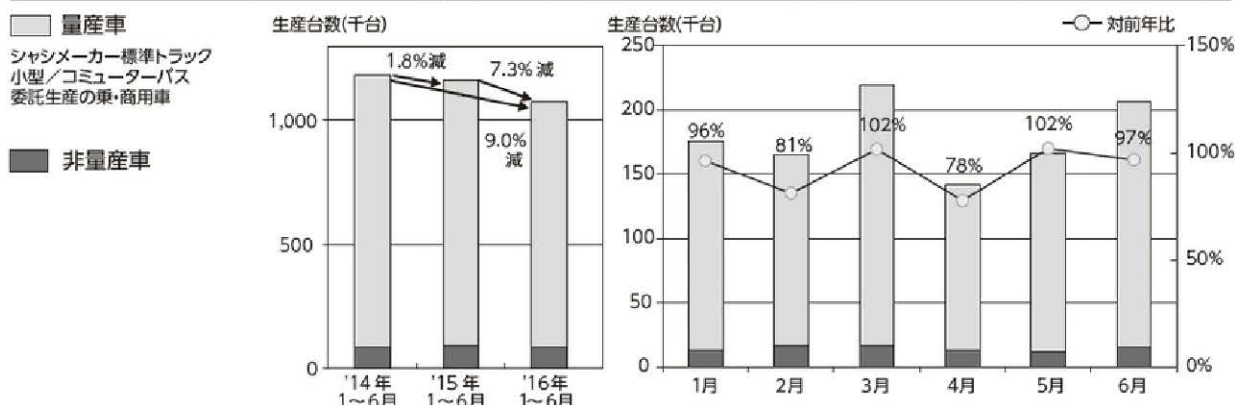
⑧ 大中型バス

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比26%増
- ・ 訪日外国人旅行者数の増加や、新運賃制度によるバス事業者収益の改善等により観光バスだけでなく路線バスも好調

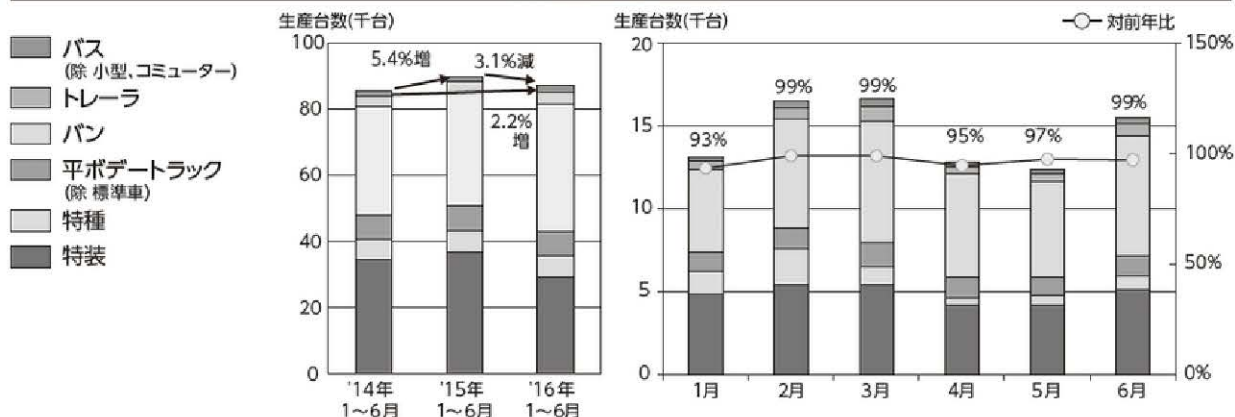
⑨ 乗用・小型商用車・軽

- ・ 1月～6月の累計台数は、前年比7.1%減
- ・ 国内向けは一部車種が好調であるものの、全体としては需要が回復せず、1月～6月の累計台数で同6.2%減
- ・ 輸出向けは1月～6月の累計台数で同8.3%減

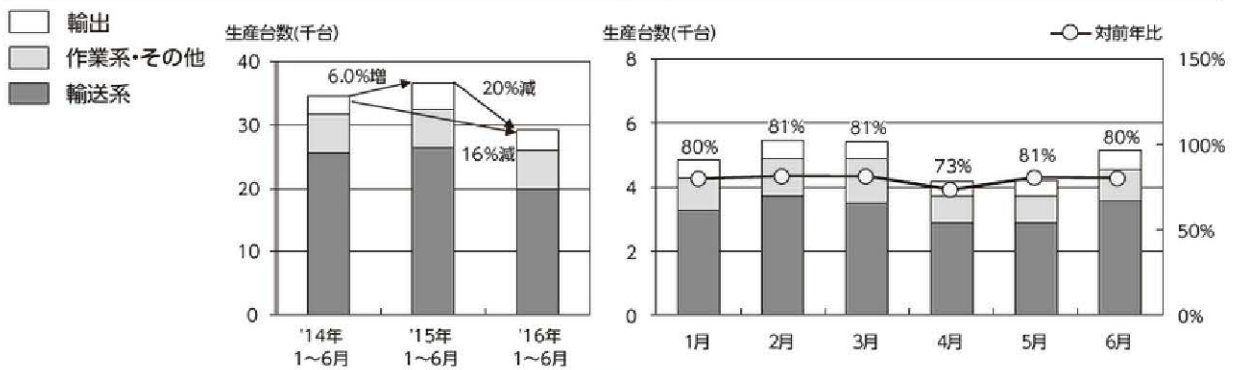
合計 (非量産車+量産車)



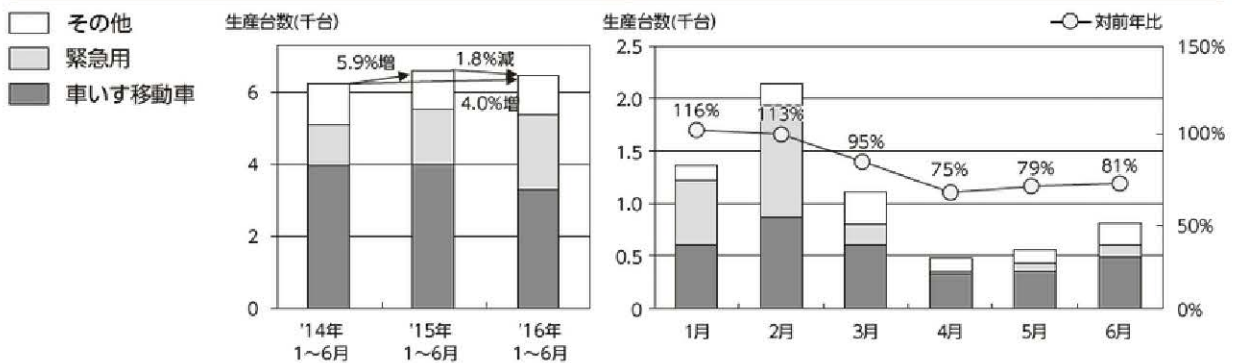
非量産車合計



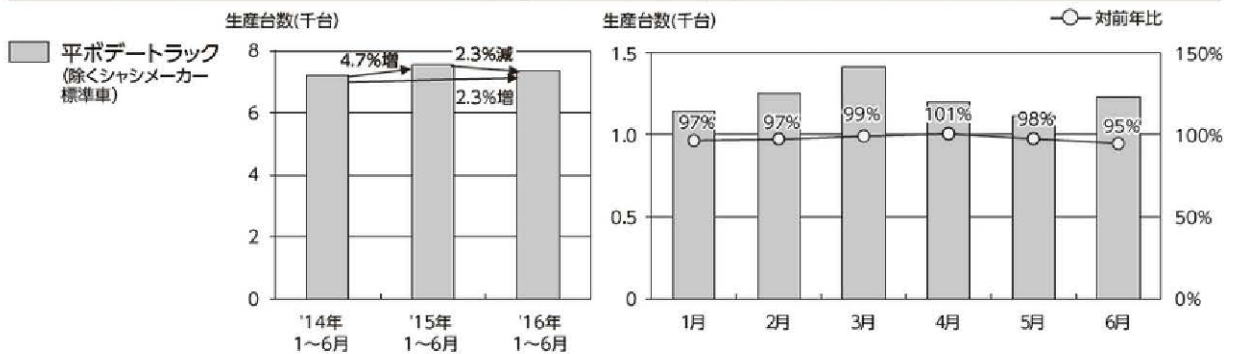
特装車



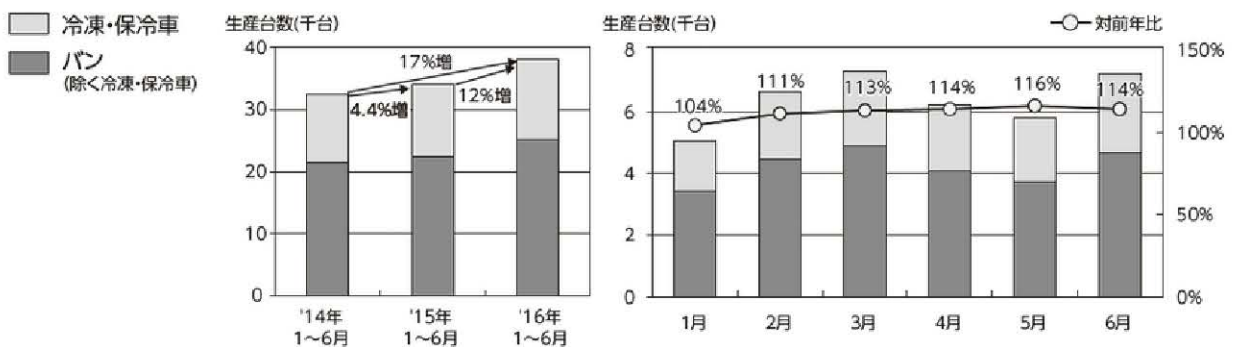
特種車



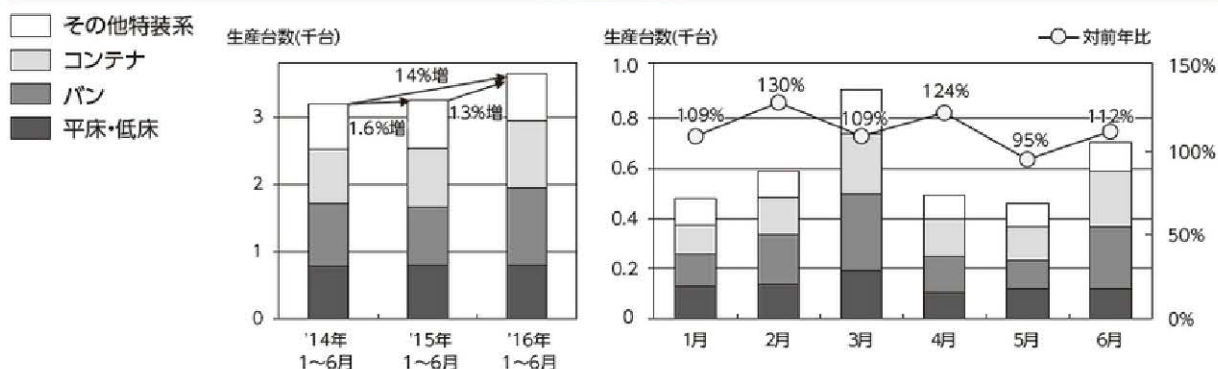
平ボデートラック



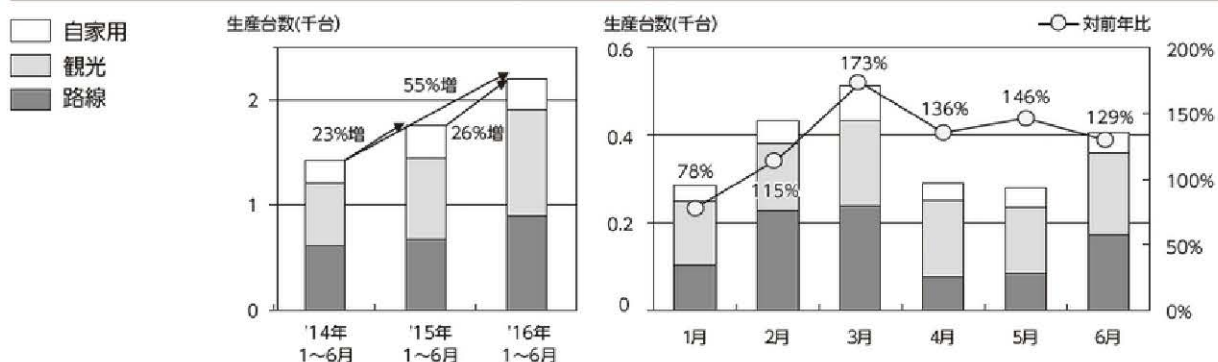
バン



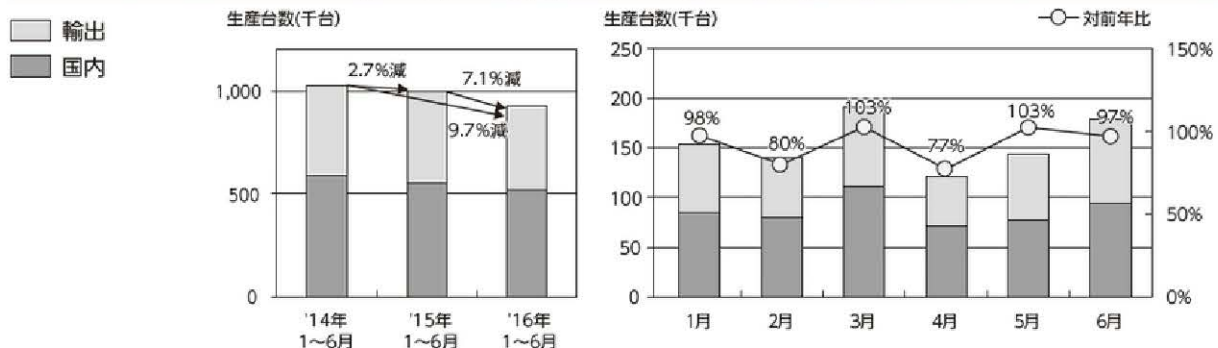
トレーラ



大中型バス



小型車 (委託生産の乗・商用車)



車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動に伴う業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>



編集後記

今年の夏は何となくおかしいと感じられた方も多かったのではないかな。日本列島からそう遠くない場所で台風が発生し、大きな被害をもたらした。被害に遇われた皆さんには心からお見舞い申し上げます。

そうした中、8月21日には17日間に及びリオデジャネイロオリンピック(現地時間)が閉幕した。日本は史上最多の41個のメダルを獲得し、その瞬間に思いを馳せておられた方は12時間の時差を感じることなく選手と一体になり、画面に見入っておられたことと思う。また、同日には、15日間にわたって阪神甲子園球場を舞台に繰り広げられた全国高等学校野球選手権大会の熱戦が閉幕した。どちらも私たちに幾多の感動や驚き、そして喜びを与えてくれたことにあらためて選手の皆さんをはじめ関係する皆さんに「ありがとう」の言葉を送りたいと思う。

4年に一度のオリンピックも毎年行われる高校野球も閉幕は次に向けた開幕である。選手として次回を目指す人、選手としてではなく選手を支える側から次回を目指す人とそれぞれ様々ではあるが全員が目標に向かってスタートを切ったはずである。リオからはアスリートファーストという言葉が聞こえてきた。当たり前のことであるが新鮮さを感じた。それは人が時として本当の目的を忘れてしまいかねないということであり、肝に銘じなければならない。

さて、本号がお手元に届く頃にはリオデジャネイロパラリンピックが終盤を迎えている。日本からは132名の選手が17競技に出場する。皆が思う存分、力を発揮し、私たちに夢や希望を与えてくれることを期待している。

(吉田)

表紙写真について

フジタ自動車(株)製 ～新型軽量ダンプローダー～

部材・構造を見直すことによりデッキの軽量化を実現した新型軽量ダンプローダーです。

GVW25トン車の場合、従来のダンプローダーよりも約300kg～500kg増の積載量が確保できます。



講演会のご案内

- ◆ 日 時 2016年10月13日(木)
14:30～16:00
- ◆ 場 所 日本自動車会館
くるまプラザ1・2・3会議室
東京都港区芝大門1-1-30
- ◆ 講演会 「国内商用車市場動向と業界を取り巻く環境」
講演者: いすゞ自動車(株)
- ◆ 参加費 無料
- ◆ 申込み 当会ホームページに掲載する用紙、又は会員へメール配信する用紙にてお申し込みください。

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査(独)検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

広告掲載会社

株式会社オージ……………表2
スリーエム ジャパン株式会社 ……表3
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 ……表4

車体NEWS

AUTUMN 2016 秋

2016年9月15日発行

発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684

発行人 吉田 量年

美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)3MTMダイヤモンドグレードTMコンスピクイティ反射シートと3MTM反射シート680Eシリーズを提供しています。

また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカルTMフィルム、コントロールタックTMプラスフィルムおよびグラフィックスを提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。

今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。



3MTMダイヤモンドグレードTM
コンスピクイティ反射シート

3MTM反射シート680Eシリーズ

スコッチカルTM フィルム

コントロールタックTMプラスフィルム

3MTM ダイヤモンドグレードTM コンスピクイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射性反射効果を持ったプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。(当社ガイドライン通りに貼付された場合)。

事故減少に対するコンスピクイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

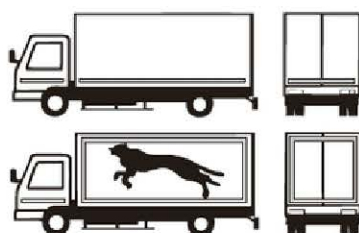
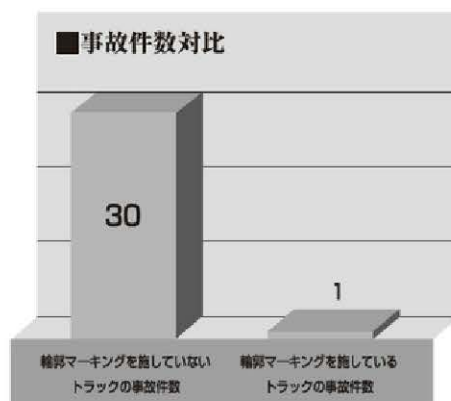
■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が“みられやすさ”(コンスピクイティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

■事故件数対比



※Eマークとは：国連の車両等の相互承認協定規則(CE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示、別添105」に定める技術基準に適合している製品でもあります。



スリーエム ジャパン株式会社

トラフィック セーフティ・セキュリティ事業部

本社 〒141-8684 東京都港区北品川6丁目7番29号
電話 03-6409-3388
URL <http://www.mmm.co.jp>

3M

生産物賠償責任保険

日本自動車車体工業会 団体PL保険制度

自動車メーカーだけではなく、
車体メーカー、部品メーカーも責任を問われる時代です。

車体工業会会員の
皆様のための
専用の保険制度。



PL事故を
幅広く補償。

スケールメリットを
生かした割安な
保険料。

貴社のPL対策を
サポートします。

制度の趣旨

- (一社)日本自動車車体工業会の会員の皆様のためのPL保険制度です。
- PL事故及び架装等が原因で生じた賠償事故の損害に対応します。
車体工業会のスケールメリットを生かした制度で多くの会員の皆様にご利用いただいております。
- この広告は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン日本興亜営業店にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先: 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 営業開発部第一課
TEL. 03-3349-3322 FAX. 03-6388-0155

取 扱 代 理 店: 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3丁目11番11号 東日本橋Y'sビル7F 株式会社ワイズマン 東京支店
TEL. 03-5623-6455 FAX. 03-5623-6488 SJNK16-02513 2016/5/26



損害保険ジャパン日本興亜株式会社